

周防畠遺跡群  
いり たか やま  
入 高 山 遺 跡

長野県佐久市長土呂字周防畠遺跡群入高山遺跡発掘調査報告書  
(古墳~平安時代集落)

2001. 3

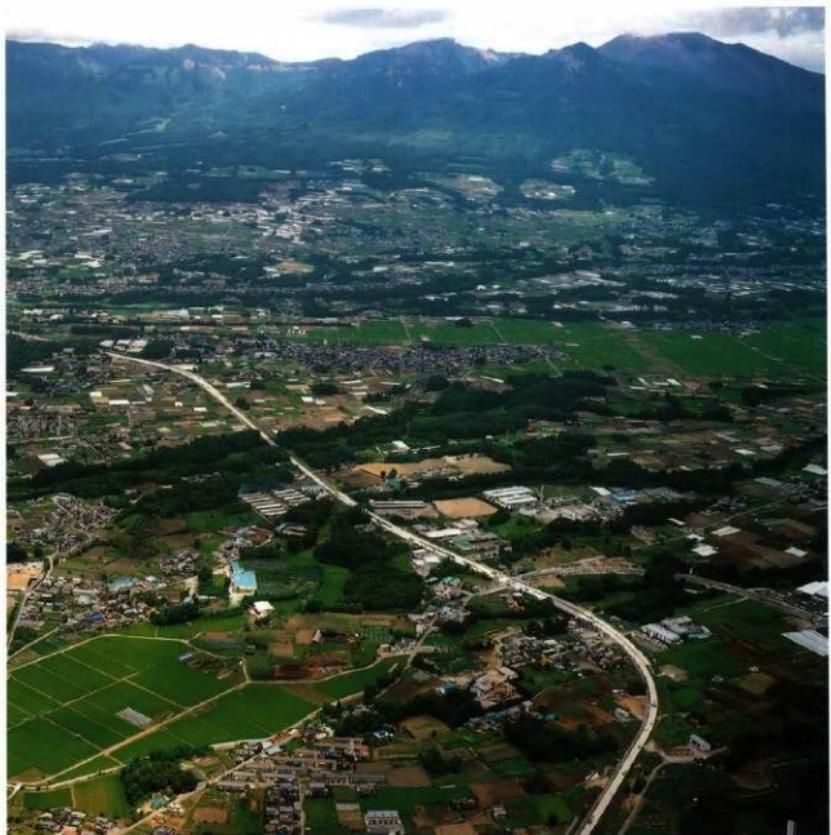
藤田エンジニアリング株式会社  
佐久市教育委員会

周防畠遺跡群  
いり たか やま  
入 高 山 遺 跡

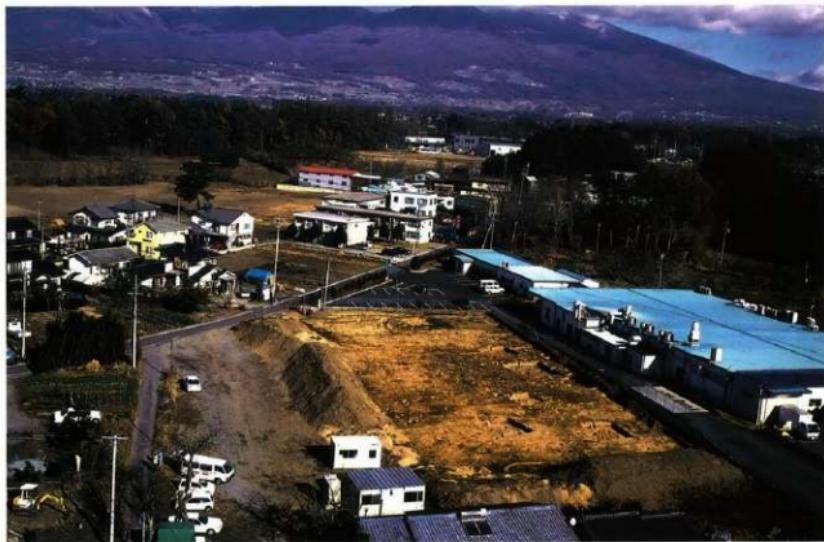
長野県佐久市長土呂字周防畠遺跡群入高山遺跡発掘調査報告書  
(古墳~平安時代集落)

2001. 3

藤田エンジニアリング株式会社  
佐久市教育委員会



入高山道路航空写真(南より) (浅間を望む。青い屋根が藤田エンジニアリング株式会社)



入高山遺跡 航空写真(南より)



入高山遺跡 航空写真



H2号住居址 カマド(西より)



H2号住居址 カマド(南より)



H2号住居址 カマド(北より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(北より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(南より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(東より)



H2号住居址 カマド壠方(東より)



H2号住居址 壺方(西より)



H7号住居址 遺物出土状況(北より)



H7号住居址 完掘(北より)



H7号住居址



H 7 号住居址

## 例　　言

- 1、本書は平成11年度の藤田エンジニアリング株式会社による工場造築工事に伴う発掘調査の報告書である。
- 2、発掘調査は藤田エンジニアリング株式会社の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
- 3、本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した。
- 4、発掘調査は林幸彦・佐々木宗昭・小林真寿・森泉かよ子が主に担当し、本書の編集は堀益子・森泉、執筆は森泉が行った。
- 5、航空写真はUR測量社に委託し、それを使用している。
- 6、本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

1、遺構の略号は次の通りである。

H—堅穴住居址、D—上坑、P—単独ピット、M—溝跡

2、遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。

3、押図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。

4、押図中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は図中に明記してある。

5、押図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

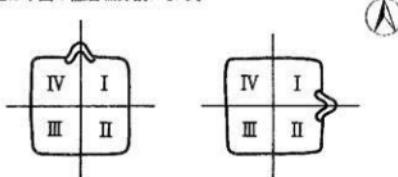
### 遺構



### 遺物



6、遺物の出土位置の表記は下図の住居址分割による。



# 目 次

## 卷頭図版

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の概要 .....	1
第1節 調査の経緯 .....	1
第2節 調査体制 .....	2
第3節 調査日誌 .....	2
第4節 検出遺構・遺物の概要 .....	3
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境 .....	4
第Ⅲ章 基本層序 .....	6
第Ⅳ章 遺構と遺物 .....	7
第1節 竪穴住居址 .....	8
第2節 掘立柱建物址 .....	30
第3節 単独ピット .....	33
第4節 溝址 .....	34
第5節 円形周溝 .....	35
第6節 陥穴 .....	36
第Ⅴ章 総 括 .....	36
引用参考文献 .....	39
写真図版	

## 挿図目次

第1図 入高山遺跡位置図 (1:50,000) .....	1
第2図 入高山遺跡遺構配置図 (1:1,000) .....	3
第3図 入高山遺跡発掘区設定図 .....	4
第4図 周辺遺跡分布図 (1:25,000) .....	5
第5図 基本層序模式図 .....	6
第6図 入高山遺跡全体図 .....	7
第7図 H1号住居址・F5号掘立柱建物址 .....	8
第8図 H2号住居址 .....	10
第9図 H2号住居址 .....	11
第10図 H2号住居址 .....	12
第11図 H3号住居址 .....	13
第12図 H3号住居址 .....	14
第13図 H3号住居址 .....	15
第14図 H4号住居址 .....	17
第15図 H5号住居址 .....	19
第16図 H6号住居址 .....	20
第17図 H6号住居址 .....	21
第18図 H7号住居址 .....	23
第19図 H7号住居址 .....	24
第20図 H7号住居址 .....	25
第21図 H8号住居址 .....	28
第22図 H8号住居址 .....	29
第23図 F1・F6号掘立柱建物址 .....	31
第24図 F2・F4・F7号掘立柱建物址 .....	32
第25図 F3・F8号掘立柱建物址 .....	33
第26図 単独ピット .....	33
第27図 M1・M2・M3号溝址 .....	34
第28図 EM1号円形周溝・D1号土坑・試掘・グリット .....	35
第29図 入高山遺跡集落変遷図 .....	37
第30図 入高山遺跡土器編年図(1) .....	38
第31図 入高山遺跡土器編年図(2) .....	39

# 第Ⅰ章 発掘調査の概要

## 第1節 調査の経緯

人高山遺跡がある周防畠遺跡群は佐久市の北部、佐久市長土呂地区に所在する。浅間山をみなもとの第1軽石流の堆積地域で河川の浸食により、田切り地形が発達している。標高721~724mを測る台地に位置する。この台地周辺には、北方から近津遺跡群、入高山遺跡のある周防畠遺跡群、その南に芝宮遺跡群・枇杷坂遺跡群などの遺跡群が展開している。またこの地域は上信越自動車道関係の発掘調査をはじめ、佐久流通業務団地造成事業、道路整備事業、区画整理事業、民間開発等に伴う大規模な発掘調査が相次いで行われている地域である。

今回藤田エンジニアリング株式会社により工場造築工事が行われる事になり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。開発により、これらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、記録保存を目的とする発掘調査をすることとなつた。調査は藤田エンジニアリング株式会社から委託を受け、佐久市教育委員会が調査を実施した。

遺跡名	周防畠遺跡群入高山(いりたかやま)遺跡(略号 NSI)
所 在 地	佐久市大字長土呂字入高山970-1、97-13
調査委託者	藤田エンジニアリング株式会社
開発事業	工場増築工事
発掘調査期間	平成11年11月4日~11月28日
整理調査期間	平成11年11月~平成13年3月
調査面積	2,724m <sup>2</sup>



## 第2節 調査体制

(調査受託者)

教育長 依田 英夫

(事務局)

教育次長 小林 宏造

文化財課長 草間 芳行

文化財係長 萩原 一馬

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学 山本 秀典 出澤 力

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 堀 益子

調査担当者 林 幸彦 小林 真寿 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査員

岩崎 重子 江原 富子 小田川 栄 木内 明美 小金澤たけみ 小林よしみ 小林百合子 小林喜久子

小山 功 佐藤 愛子 澤井 五月 関崎 清一 中島フクジ 中條 悅子 成澤 富子 花里四之助

花里三佐子 林 美智子 細谷 秀子 堀籠 滋子 堀籠みさと 真島 保子 増野 深志 水間 雅義

柳澤千賀子 山浦 豊子 和久井義男

## 第3節 調査日誌

(平成11年度)

平成11年11月4日

重機で遺構検出地点の表土削平。

11月8日

重機による表土削平。

遺構検出作業。遺構の掘り下げに入る。

基準杭設定。

11月9日

遺構検出・遺構の掘り下げ開始。

11月26日

本日で現場での作業終了。

11月28日

ラジコンヘリによる航空撮影。

11月28日～3月31日

土器洗浄、注記、図面修正、写真整理作業。

土器接合・石膏復元、土器・石器実測、

遺構・遺物団のトレース作業。

(平成12年度)

平成12年4月～平成13年3月

遺構・遺物団のトレース、土器・石器実測、

遺物の写真撮影、図版作成、原稿執筆、編集を行い、報告書を刊行する。



作業風景



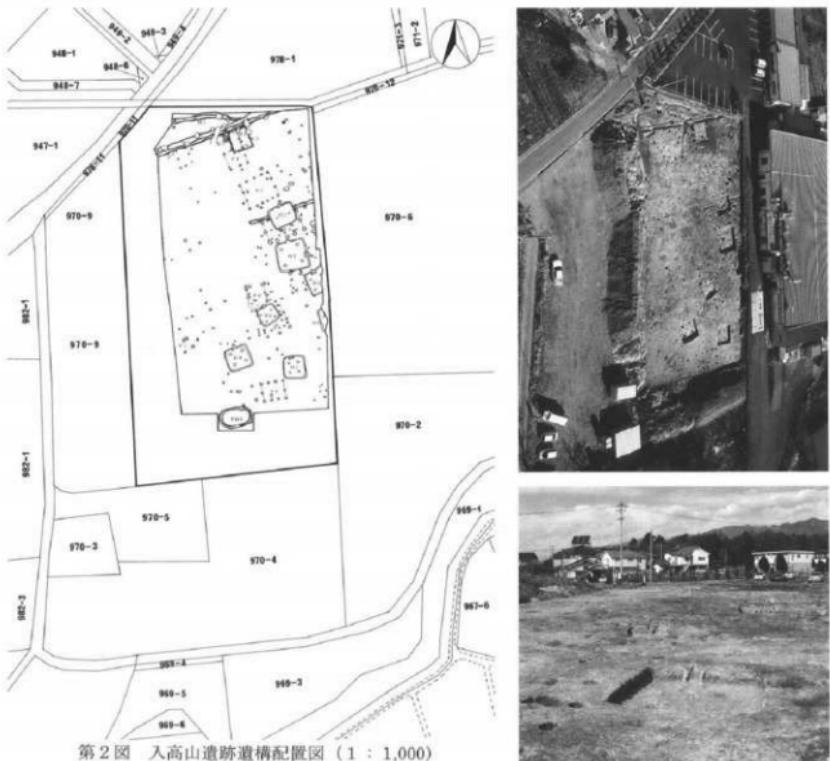
作業風景



H3号住居址

## 第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構	遺物		
竪穴住居址	8棟	土器	石器
古墳時代	5棟	土師器	編物石
奈良時代	2棟	須恵器	白玉
平安時代	1棟		筋鍤車
掘立柱建物址	8棟		スリ石
単独ピット	160個		凹石
陷穴	1基		砥石
溝	3本		
円形周溝	1基		



## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境



第3図 入高山遺跡発掘区設定図

入高山遺跡が所在する周防畠遺跡群は、佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置する。この地域は、火山山麓特有な田切り地形が発達した地域である。これらの田切りは、御代田方面から南西方向に放射状に伸びている。入高山遺跡地点も浅間火山がもたらした浅間第一軽石流(P1)が厚く堆積している。この軽石流堆積物は固結凝集が不十分で水の浸食に極めて弱く、小さな川でも浸食されて田切り地形を形成しやすい。この田切りに挟まれた台地の一つが周防畠遺跡群で、入高山遺跡がある。南側がすぐ田切りに望む。

今回の調査を行った入高山遺跡は、南西方向に伸びる周防畠遺跡群の中央付近にあり、標高は724~721mと南に傾斜して低くなっている。50mほど南は田切りに接する地点である。佐久市北部の周防畠遺跡群、芝宮遺跡群、さらに南の長土呂遺跡群は田切り上に遺跡群が密集している地域である。この台地の遺跡群先端地点では弥生時代後期の集落が検出されている。

田切りが消滅した南方の低地には渦り遺跡があり、弥生から現在の水田まで各時代の水田層が確認されている。低地の北西に当たる地点には鶯林・東池下・下大豆塚古墳群がみられる。そしてさらに南下して湯川沿いには弥生中期~古墳時代、平安時代にわたる集落が展開している。

表にみると入高山遺跡の周辺は古墳時代からの集落が多く、古代になって開発された地域であることがわかる。またこの台地には古墳群などではなく、この集落の首長はどこに葬られたのか興味がもたれるところである。



第4図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

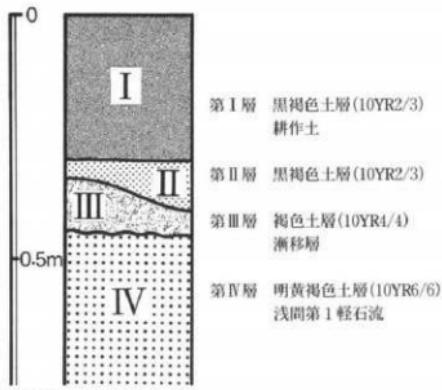
No	遺跡名	所在地	立地	時代	備考
1	入高山遺跡	長土呂字入高山	台地	古~平	本報告書
2	高山遺跡	長土呂字下高山	台地	平	平成5・7年度発掘調査
3	上高山遺跡	長土呂字上高山	台地	古	平成元年・3年度発掘調査
4	芝宮遺跡群	長土呂字上芝宮	台地	古~平	平成5~7年度発掘調査
5	南上中原・南下中原	長土呂字南上中原	台地	古~平	昭和63・平成5年度発掘調査
6	下聖端遺跡I~IV	長土呂字下聖端	台地	弥~平	昭和63・平成4~11年度発掘調査
7	聖原遺跡I~IX	長土呂字聖原	台地	古~平	平成元~9年度発掘調査
8	上久保田遺跡I~VII	岩村田字上久保田向	台地	古~平	平成元~4年度発掘調査
9	周防畠A遺跡	長土呂字南下北原	台地	奈~平	昭和54年度発掘調査
10	若宮遺跡I・II	長土呂字若宮	台地	古~平	昭和58・平成3年度調査
11	周防畠B遺跡	長土呂字下仲田	台地	弥~平	昭和54年度発掘調査
12	北近津遺跡	長土呂字北近津	台地	弥~平	昭和46年度発掘調査
13	西近津遺跡	長土呂字西近津	台地	弥~古	昭和46年度発掘調査
14	鶯林古墳群	長土呂字鶯林	微高地	古	
15	東池下古墳群	常田字東池下	微高地	古	昭和49年度発掘調査
16	下大豆塚古墳群	塙原字下大豆塚	微高地	古	昭和56年度発掘調査
17	瀬り遺跡	塙原字瀬り・丸山	低地	弥~平	平成4年発掘調査
18	清水田遺跡	岩村田字清水田	台地	弥~古	昭和53年度発掘調査

### 第Ⅲ章 基本層序

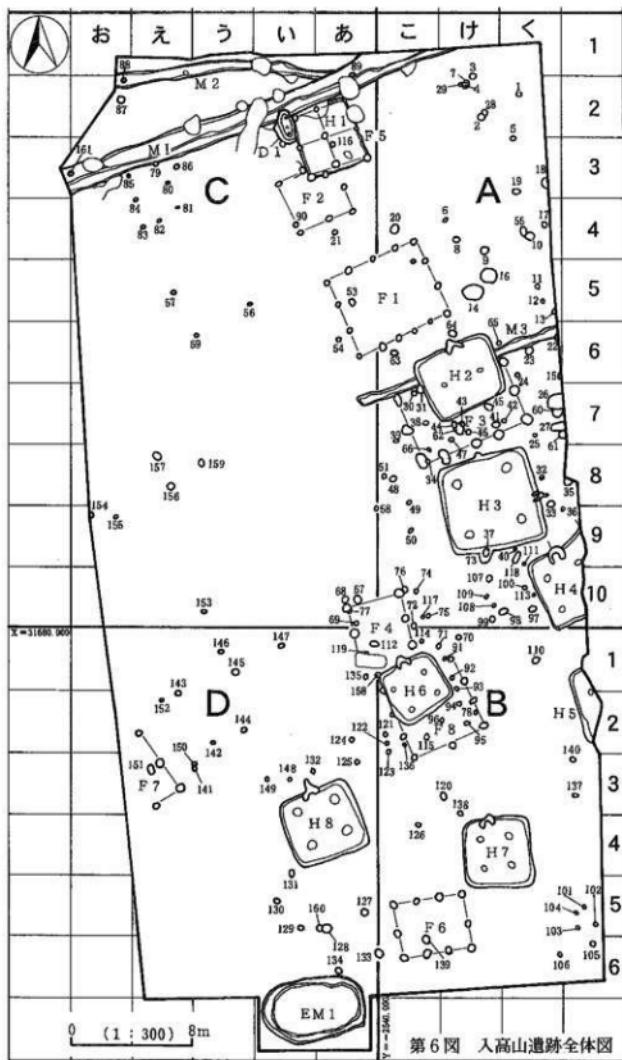
周防畠遺跡群入高山遺跡は浅間第一軽石流の堆積地点であり、地盤の低い地点に黒褐色土が堆積し、漸移層下は第一軽石流である。



H3号住居址カマドセクション(西上り)



第Ⅳ章 遺構と遺物

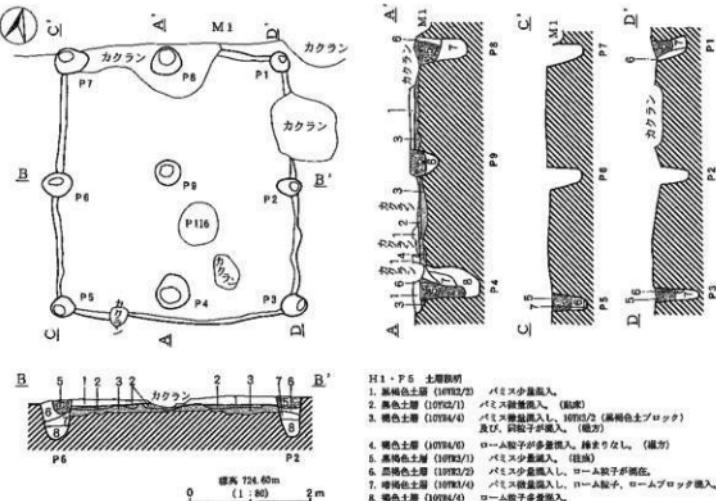


## 1、堅穴住居址

### 1) H1号住居址・F5号掘立柱建物址（第7図、図版1）

調査区北側のCあ2グリットに位置し、F5・M1に切られ、D1を切る。南北424cm、東西380cmの長方形を呈し、長軸方位はN-24°-Wを指す。壁残高は8cmと浅く、北側中央には擾乱があり、遺構が壊されている。またF5と規模・形態を同じくしており、同一の遺構と考えられる。カマド等の火所は検出されていない。F5は2間×2間の縦柱式で、南北420cm、東西370cm、南北の柱間が2.0~2.1m、東西の柱間が1.3~1.7m、柱穴の径は34~54cm、深さ58~108cmを測る。

出土遺物は古墳時代後期土師器甌・丸胸甌・甌・武藏甌・丸底の内面ミガキ黒色処理杯片など41片の中に須恵器杯の系切り底2、口縁端部の折れた蓋片1、タタキ目の甌片2がある。多い破片からいえば古墳時代後期であり、最終遺物からいえば平安時代初頭となる。



第7図 H1号住居址・F5号掘立柱建物址

### 2) H2号住居址（第8・9・10図、第2表、巻頭図版3・図版9・10）

Aけ6グリットにあり、F3・M3を切る。南北400cm、東西480cmの隅丸長方形でカマドを北壁中央に持つ。主軸方位はN-20°-Wである。壁残高は48cmを測り、カマドの残存状況もよかつた。カマドは使用状態のまま検出された。かまどは焚き口の内幅40cm、内高20cmを測る。先端に袖石を置き、そこに長胴甌を2個重ねて袖石の上に置き框石の代用をし、上に粘土を貼っている。カマドには2個の長胴甌がセットされていた。床面は、ロームを入れ、貼床としている。住居址中央列に東西2個主柱穴が見つかった。直径40cmを測る不整円形の堀方に直径20cmの梢円の柱痕が残っていた。カマドの東脇に長径40cm、深さ52cmのピットがある。周溝は北壁下西側にある。

出土遺物には土師器甌(1~3)、小型丸底か小甌(4)、長胴甌(5~11)、丸胸甌(13)、小型甌(12)がある。また混入品として須恵器の高台付き杯がある。

その他に、鉄製品では鍛、帽尾金、木質部のついた刀子の柄がある。

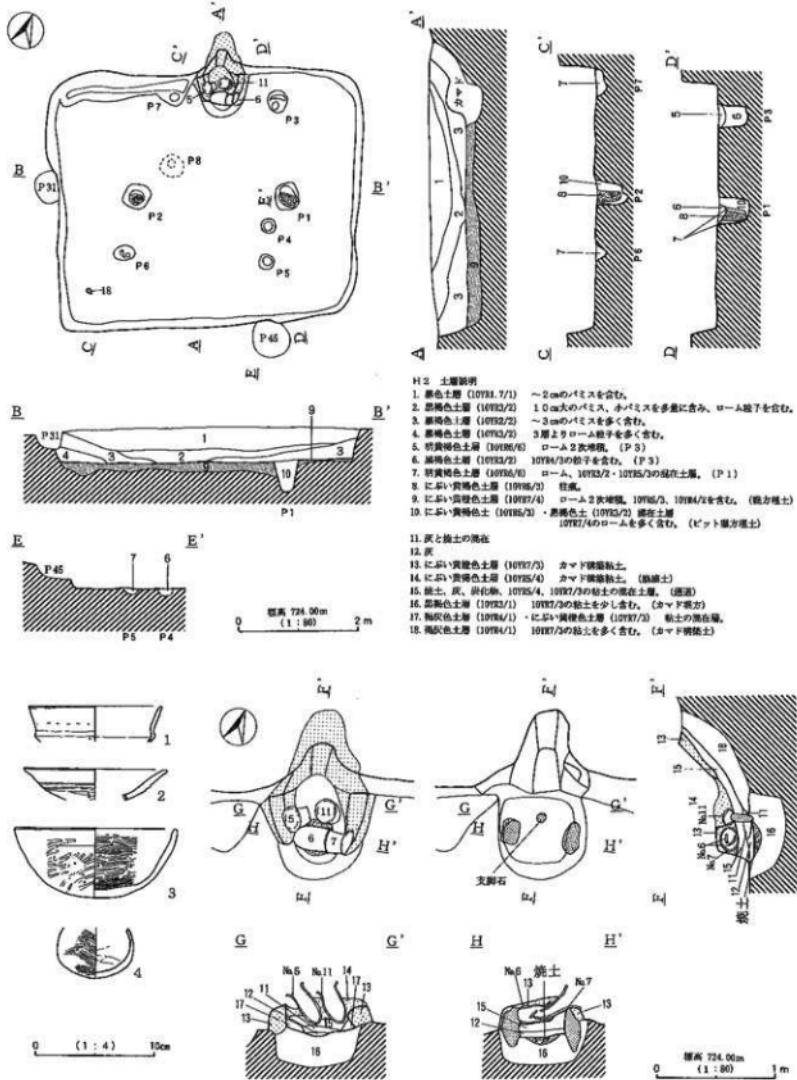
土師器甌1は橙色を呈す薄手小振りな須恵器甌の横倅杯で、内面はナデ調整である。3はやはり橙色で薄手の作りであるが内面はミガキが施されている。外面はヘラケズリ後、口縁1.2cmほどが横ナデされる。白色の1mm大粒子

が目立ち、1より胎土は粗い。2は小破片で器形は明らかでないが、小さな丸底から沈線上の稜をなして口縁が外傾する。内面ミガキ調整される。4は端部欠損しているため器形が明らかではない。球形を呈し、内面ナデ、外面ヘラケズリ後ミガキ調整がしてある。長胴甕は7個体あり、6・7がカマドの構築材として、5・11がカマドにセットされていた甕である。6・7の長胴甕口縁部の外反がきつい。9は5と同じ0.5~1.2cmの大いな小石を含み、粗い粒子が目立つ甕である。粗い粒子が入っているためか胴部外面のヘラケズリは弱くナデ状で、下部はヘラケズリされる。8は口縁部の外反が強く、胎土が緻密で厚手である。胴部外面の調整もヘラナデである。5・9・11の新しい甕は口縁部が長く、口縁の外反度が弱いようである。長胴甕の胎土は1~3mmの塊としては一般的なものと、5・9のように1.2cmや5mmの粗い小石を含むもの、8のように緻密なものとがある。13の丸胴甕は胴部が球形を呈し外面は口縁部横ナデ、胴部ハケナデ後ミガキ調整、内面は口縁部ミガキ胴部ハケ調整のままである。

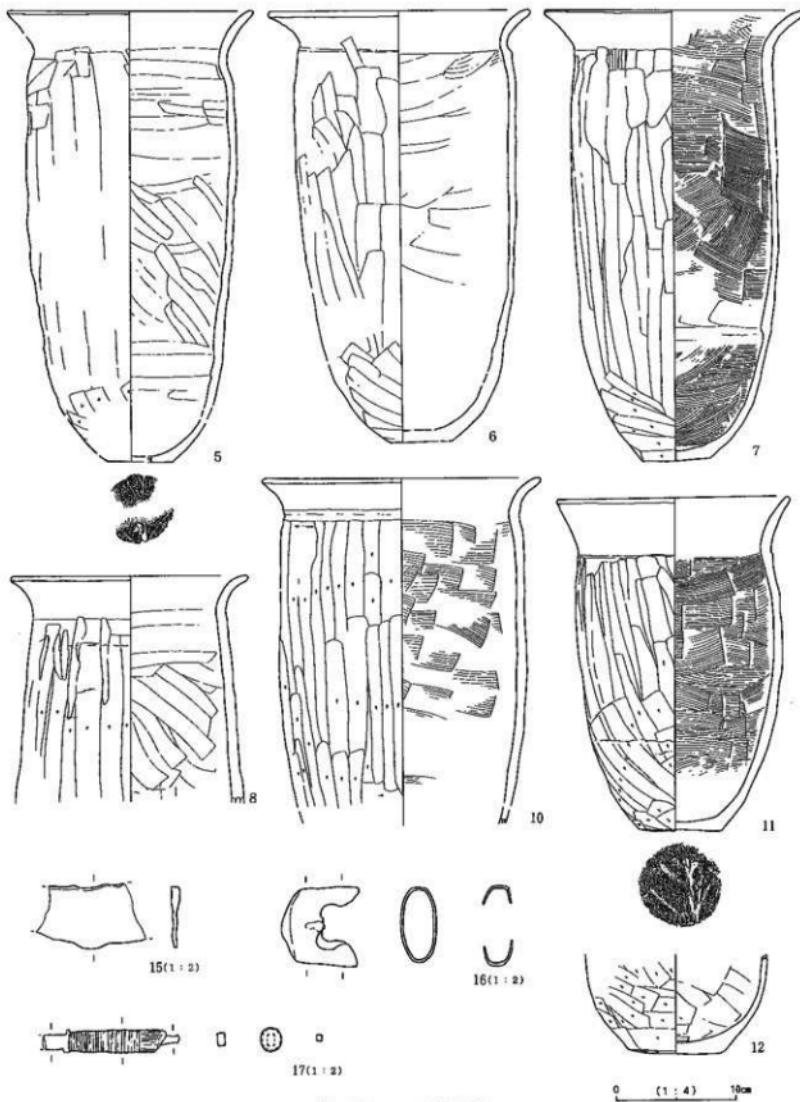
16の鉄製太刀鞘尾金が出土しており、1984 滝瀬「円頭・圭頭・方頭太刀について」を参照すると、飾り太刀の鞘尾金である。16の鞘尾金は東大寺大仏殿須弥壇下出土例と類似し、Ⅲ期に分類され、7c中葉以降と編年されている。

第2表 H2号住居址出土遺物一覧表

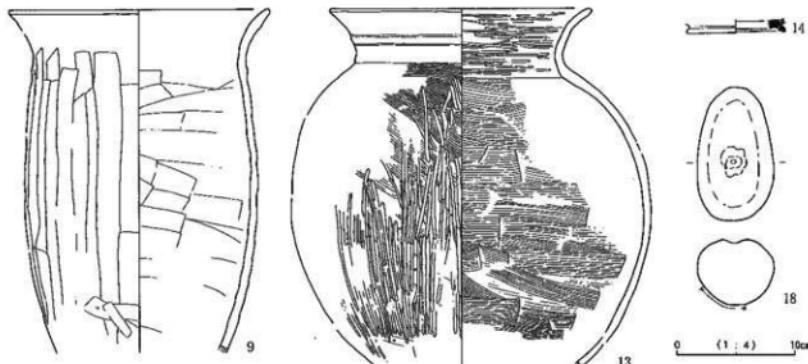
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(11.2) (10.0) <3.0>	内 横ナデ 外 脚部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/2残存 内 SYR7/4(にぼい橙) 外 SYR8/4(淡橙)	きめ細かい。 赤色粒子含む。	Ⅳ区 Ⅳ区1層 Ⅳ区2層
2	土師器 杯	(12.0) — <2.6>	内 強離のため判らない 外 体部ケズリ→口縁部横ナデ 2条の斑状あり	口縁部1/6残存 内 2.5SYR2/2(灰白) 外 2.5SYR2/2(灰白)	きめ細かい。 白色粒子少量含む。	Ⅰ区3層
3	土師器 杯	13.5 — 5.8	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→体部(ケズリ)→若いミ ガキ	口縁部2/3残存 内 7.5SYR7/4(にぼい橙) 外 SYR7/4(にぼい橙)	砂粒、白色粒子含む。	Ⅰ区トレ、Ⅰ区3 層、Ⅱ区2層、Ⅳ 区3層、カマド
4	土師器 壺	— <4.3>	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ 口縁部近くに焼成前の穿孔あり。	内 7.5SYR7/4(にぼい橙) 外 7.5SYR7/4(にぼい橙)	きめ細かい。 小石含む。	Ⅰ区3層
5	土師器 甕	20.4 5.4 37.2	内 口縁部横ナデ→脚部横ナデ→斜位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部・縁位ヘラナデ→ 脚下半部ケズリ	口縁部7/8残存(ほぼ完形) 内 SYR8/4(にぼい橙) SYRS/1(褐灰) 外 SYR7/3(にぼい橙) 7.SYR7/3(にぼい橙)	1~1.5mmの小石、1mmの白色 粒子、5mmの小石多く含む。 底部に木炭痕あり。	カマド
6	土師器 甕	21.7 5.1 35.6	内 口縫部横ナデ・胴部横位(ヘラ)ナデ 外 口縫部横ナデ→胴部上→中横位→ヘラナ デ→脚下半部ケズリ	口縫部ほぼ完形、底部3/4残存 内 2.SYR8/4(にぼい橙) 外 2.SYR8/4(にぼい橙)	3mm以下の白色粒子含む。	カマド Ⅰ区3層
7	土師器 甕	21.6 5.6 37.2	内 口縫部横ナデ→ハケナデ 外 口縫部横ナデ→胴部ナデ→胴部→底部 ヘラケズリ	ほぼ完形 内 7.5SYR7/4(にぼい橙) 7.SYR8/4(灰黄橙) 2.SYR7/4(淡赤橙)	3mm以下の赤色粒子、1mm以 下の白色粒子、黒色粒子含 む。	カマド
8	土師器 甕	19.5 <18.7>	内 口縫部横ナデ→胴部斜位ナデ→胴部上 半部横位ナデ 外 口縫部横ナデ→胴部横位ケズリ→ナデ	口縫部7/8残存 内 10YR7/3(にぼい黄橙) 外 10YR7/3(にぼい黄橙)	きめ細かい。緻密な胎土。 1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。	カマド Ⅳ区1層
9	土師器 甕	21.7 — <28.7>	内 口縫部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 外 口縫部横ナデ→胴部横位ヘラナデ	口縫部5/8残存 内 7.SYR8/4(にぼい橙) 外 7.SYR8/4(にぼい橙)	1~1.5mmの小石、2mm大砂粒 多く含む。	カマド、Ⅰ区3 層、Ⅳ区2層
10	土師器 甕	(23.0) — <28.6>	内 口縫部横ナデ→胴部横状ヘラによる横 位ナデ 外 口縫部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ	口縫部1/3残存 内 2.5SYR7/6(橙) SYR7/4(にぼい橙) 外 SYR7/4(にぼい橙)	2mm以下の白色粒子、3mm以 下の赤色粒子を含む。	カマド Ⅳ区2層 Ⅳ区2層
11	土師器 甕	19.3 6.8 27.6	内 口縫部横ナデ→胴部横状のヘラによる 横位ナデ 外 口縫部横ナデ→胴部上半部横位ナデ→ 脚下半部斜位ケズリ	完形 内 SYR7/4(にぼい橙) 外 SYR7/4(にぼい橙)	2mm以下の白色粒子含む。 底部に木炭痕あり。	カマド
12	土師器 甕	— 7.5 <8.2>	内 ナデ 外 ケズリ	底部完形 内 SYR7/3(にぼい橙) 外 7.SYR6/3(にぼい橙)	4mm以下の赤色粒子・1mm の黒色粒子を含む。	Ⅳ区2層
13	土師器 甕	21.9 — <30.0>	内 口縫部横ナデ→横位ミガキ 胴部横位ナデナデ 外 口縫部横ナデ→胴部上半部斜位ヘラケズリ 脚下半部斜位ケズリ→胴部横位ミガキ	口縫部3/5残存 内 7.SYR7/4(にぼい橙) 外 SYR7/4(にぼい橙)	3mm以下の赤色粒子含む。 きめ細かい。 黒色の白色粒子含む。	Ⅳ区2層、Ⅰ区3層、 Ⅳ区3層、Ⅱ区2層、 Ⅳ区1層、Ⅳ区2層、 Ⅲ区2層、Ⅲ区サブ トレ、カマド



第8図 H 2号住居址



第9図 H2号住居址



第10図 H2号住居址

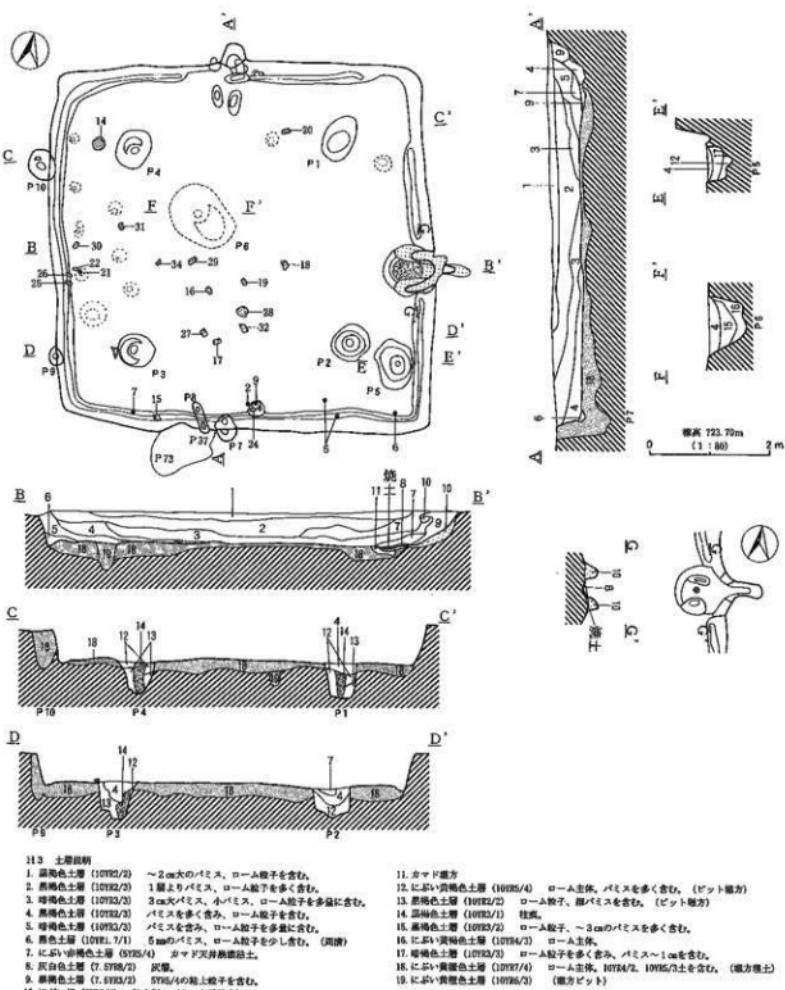
14	須恵器 杯 (高台付)	一 (8.4) <1.1	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付	底部1/4残存 内 5Y6/1(灰) 外 10Y5/1(灰)	白色粒子、黒色粒子含む。 黒色粒子溶出。混入品。	Ⅲ区サブトレ
番号	種別	長さ	巾	厚さ	目	備考
15	縁	<4.3>	2.4	0.3	6	馬土位置
16	網尾金	<2.4>	3.0	0.1	12	Ⅱ区1層
17	網	<5.6>	0.9	0.8	4	Ⅲ区1層
18	凹石	11.1	6.5	5.4	580	Ⅱ区3層

## 3) H3号住居址 (第11・12・13図、第3表、図版2・11・12)

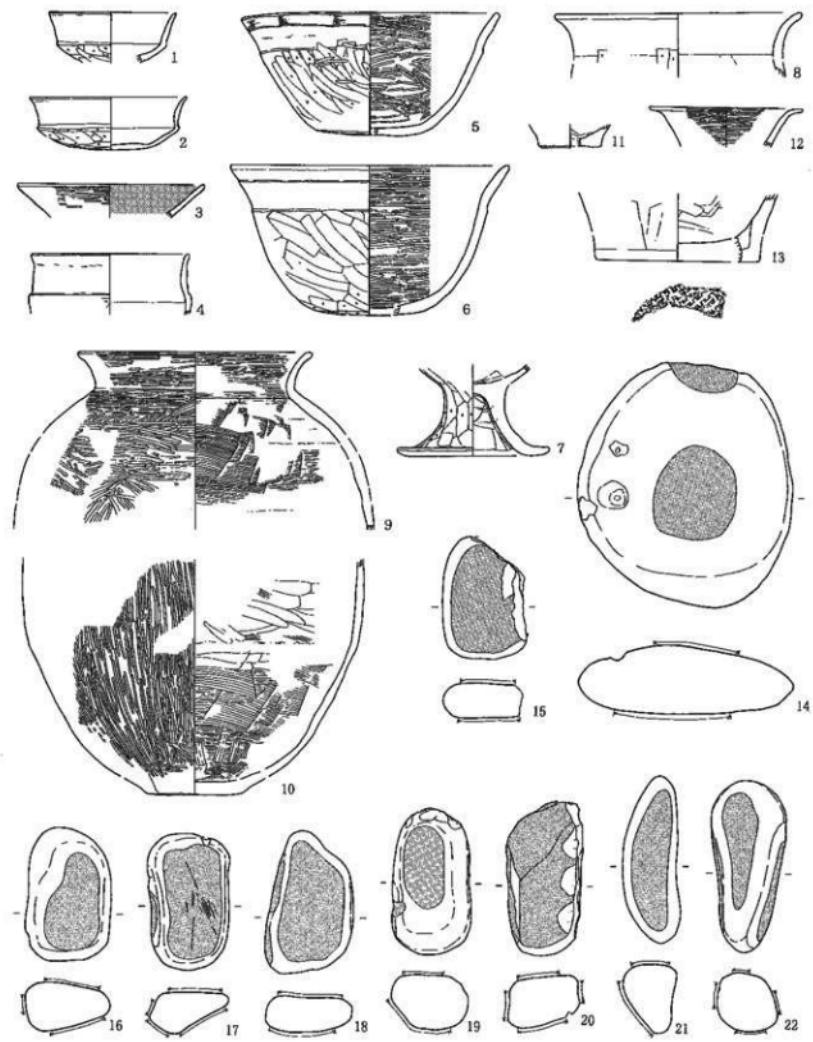
Aく8グリットにあり、南北560cm、東西580cmの方形の住居址である。壁残高は53cmを測る。カマドは東壁中央にあり、主軸方位はN-77°-Eを測る。北壁中央にも旧カマドが検出された。カマドは粘土で構築され、両袖と煙道が残っていた。内幅32cmを測る。カマドの火床面には灰が多量に残り、焼土がみられた。床面はロームを入れ込み締まっていた。主柱穴はP1-P4で、直径52-56cmの楕円形、深さ48-60cmを測るピットに、径20cmの柱痕がみられた。南東には80cm×64cmの楕円形、深さ32cmのP5がある。中央の床下からは直径88cm、深さ64cmの落ち込みがあった。風倒木跡の可能性もあるが明確ではない。またP7-P10は壁に埋り込まれたピットで、ローム主体で、バミスを多量に含んでいた。

出土遺物には土師器杯(1~3)、鉢(4~6)、高杯(7)、長胴甌(8)、丸胴甌(9~10)、手捏(11)、壺(12)、縞物石(15~16・27・29~34)、凹石・台石(14・28)と混入品である縞文土器(13)がある。

土師器杯1・2は橙色の薄手のもので、内面はナデ、外面口縁は横ナデ、底部はヘラケズリされる。3は内面ミガキ黒色処理、外面ミガキ調整される杯で、底部は欠損する。4は底部がないのでわからないが、鉢形を呈すものだろう。内外面口縁部横ナデされ、外面胴部がヘラケズリされる。5・6は鉢で同器形である。口縁部は有段口縁状にヘラ状具を押しつけて、口縁部に段がつけられている。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、5はわずかにミガキ調整、内面は両者ともミガキ調整される。7は高杯の脚部で、撮部が外反するもので、外面はヘラケズリ調整される。8は長胴甌の口縁で、短く外反する。11は手捏であろうか。9・10は接合できなかったが、同一個体の丸胴甌である。底部はわずかに台状の平底を呈す。外面ミガキ調整、内面はハケ目残してナデ調整され、口縁部は丁寧にミガキ調整がなされる。12は壺口縁部が高杯脚部かであろうが、両面丁寧にミガキ調整される。これらの土器は古墳時代後期の上器群である。

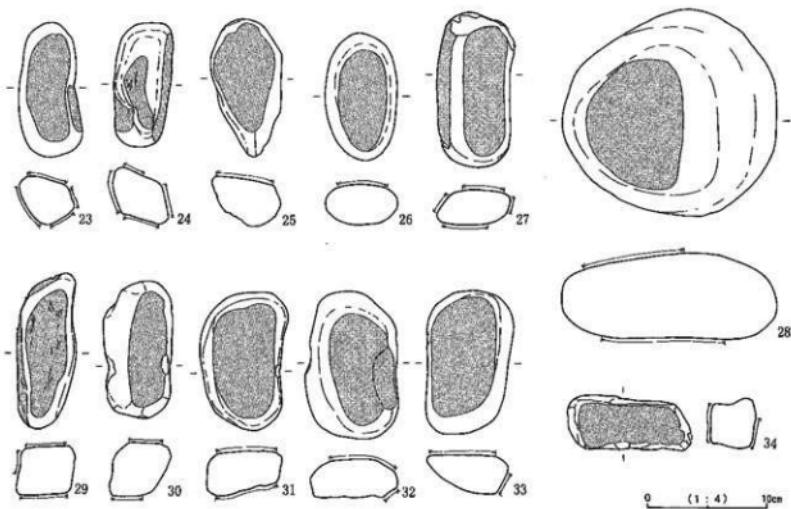


第11図 H 3号住居址



第12図 H 3号住居址

0 (1 : 4) 10cm



第13図 H3号住居址

第3表 H3号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・測定	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	10.6 9.0 <4.1>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部2/3残存 内 7.5YR7/6(橙) 外 7.5YR7/6(橙)	きめ細かい。 1mmの赤色粒子含む。 並みあり。	H区4層
2	土師器 杯	(12.9) (11.7) 4.4	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/3残存 内 2.5YR7/6(橙) 外 SYR7/4(にぶい橙)	きめ細かい。 0.5mm以下の赤色粒子少量 ・小石合む。	
3	土師器 杯	(15.6) — <2.8>	内 ミガキ→黒色処理 外 横位ミガキ	口縁部1/4残存 内 黒 外 SYR5/4(にぶい橙)	0.5mm以下の赤色粒子、白色 粒子、石英、黄石含む。	H区4層
4	土師器 鉢	(13.0) — <5.0>	内 刷部ナデ→口縁部横ナデ 外 刷横位ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 SYR6/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子少量含む。	H区3層 H区4層
5	土師器 鉢	21.4 8.5 10.2	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→刷・底部横位ケズリ→ 刷横位ミガキ	ほぼ完形 内 SYR2/3(にぶい橙) 外 SYR2/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子、白色粒子、 黑色粒子含む。	
6	土師器 鉢	(23.2) (9.0) <12.3>	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→刷部ナデ→底部・底部 刷横位ケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	きめ細かい。 2mmの赤色粒子少量含む。	カマド
7	土師器 高杯	— 12.6 <7.5>	内 杯部ナデ 脚部・脚部横ナデ→脚部横位ヘラナダ 外 脚部・横位ミガキ・諸部横ナデ→杯 部・南部ヘラナダ	底面3/4残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙) 外 SYR6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、黑色 粒子含む。	
8	土師器 甕	(20.6) — <5.3>	内 刷部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→刷部横位ケズリ	口縁部1/8残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の赤色粒子含む。	H区3層 H区4層
9	土師器 甕	(19.4) — <14.6>	内 刷部横位ハケナダ→一部横位ナデ→II 縁部横位ミガキ 外 横位ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 SYR5/4(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子、黑色粒子 白色粒子含む。 IIと同一個体	H区4層 H区4層 H区サブトレ
10	土師器 甕	— 7.8 <19.4>	内 構造ハケナダ→肩上部横位ナデ ナデ→横位ミガキ	底面は完形 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 SYR7/6(橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子含む。 IIと同一個体	I-II区サブトレ I区2・3層 I区3層 H区4層

11	土師器?	— (5.2) <1.9>	内 ナデ 外 ナデ	底部1/4残存 内 7.5YR7/2(明褐灰) 外 7.5YR7/2(明褐灰)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。	I区3層
12	土師器 甕?	12.8 — <3.2>	内 輪位ミガキ 外 輪位ミガキ	口縁部1/8残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/6(橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	IV区2層
13	網文土器 深鉢	— (13.6) <5.6>	内 ヘラナデ(横位) 外 (ヘラ)ナデ(縦位)底部網代底	底部1/5残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子・1mmの小石多く含む。	IV区2層
番号	種類	長さ	巾	厚さ	備 考	出土位置
14	陶石	20.0	17.8	5.7	2.720	表面あり。安山岩。
15	織物石	10.1	<6.8>	2.9	350	表面あり。安山岩。
16	織物石	10.9	7.1	4.1	560	表面あり。安山岩。
17	織物石	11.2	6.8	3.4	380	表面あり。硬質砂岩。
18	織物石	11.8	7.3	3.0	386	表面あり。安山岩。
19	織物石	12.0	6.4	4.6	600	花崗岩。赤色顔料が塗分かれている。赤いものが付着している。雷打痕あり。
20	織物石	12.6	6.3	4.4	550	表面あり。チャート。
21	織物石	13.7	4.8	5.7	482	表面あり。安山岩。
22	織物石	14.1	6.2	4.9	554	表面あり。安山岩。
23	織物石	11.1	5.2	3.9	344	硬質砂岩。安山岩。
24	織物石	10.2	4.8	4.6	312	チャート。安山岩。
25	織物石	11.3	5.8	4.1	354	チャート。安山岩。
26	織物石	10.5	6.0	3.3	318	表面あり。安山岩。
27	織物石	12.8	6.4	2.9	422	表面あり。花崗岩。
28	擦石	16.9	17.7	7.0	3,110	表面あり。花崗岩。
29	織物石	12.8	4.9	4.0	484	表面あり。硬砂岩。
30	織物石	11.3	5.7	4.5	432	チャート。表面に赤色顔料らしきものが付着している。表面あり。
31	織物石	11.3	7.3	3.7	400	滑面あり。安山岩。
32	織物石	12.1	7.8	3.2	452	滑面あり。安山岩。
33	織物石	11.8	7.2	3.2	440	表面あり。安山岩。
34	織物石	10.2	4.6	3.8	280	表面あり。安山岩。

## 4) H4号住居址（第14図、第4表、図版3・10）

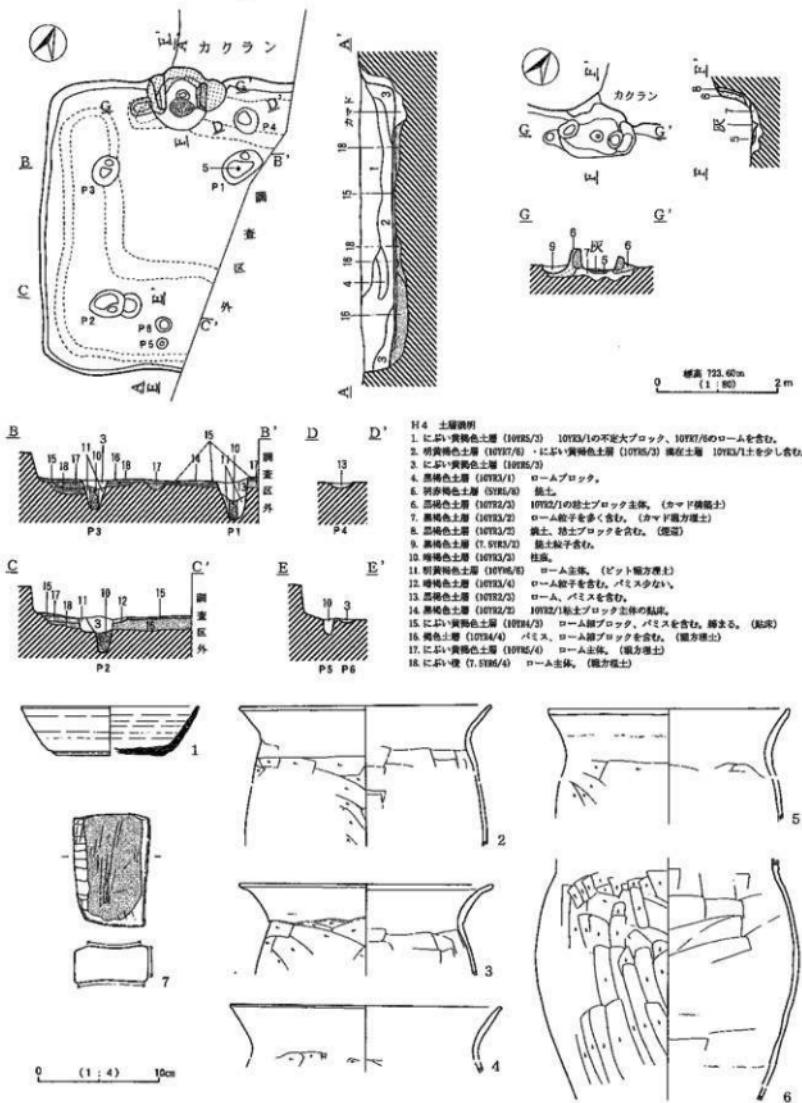
Aき9グリットにあり、西側は調査区域外であるため住居址全体は調査できなかった。南北464cmを測り、(東西は400cmを調査し、東壁は近い所にある。)南北にやや長い丸長方形を呈すものと思われる。壁残高は52cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-27°-Wを測る。覆土はロームブロックを多く含む上、人為的に埋められていた。カマドは袖先に軽石を四角に加工して置き、黒色の粘土を貼って構築している。内幅56cmを測る。カマドに接して西には長径40cm、深さ12cmの落ち込みがある。またP4はカマドの東脇にあり、径40cm、深さ8cmの深い落ち込みである。主柱穴はP1-P3で、短径42-50cm、深さ48-64cmを測る楕円形ビットの中に、径14-24cmの柱痕がみられた。床面はカマドからP1にかけて粘土を、他是ロームブロックを入れた土を固め北側は締まっていた。塀方は周辺部を深く掘り込み、中央部を高くしていた。

出土遺物には須恵器杯(1)、土師器蓋(2~6)、砥石(7)がある。砥石は凝灰岩製で、一面は規則正しくカットされている。須恵器杯は平底で、口縁部は横ナデ、底部は回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリされている。蓋はいずれも武藏型であり、口縁部形態は「く」の字形態である。

これらは奈良時代に位置付けられる土器群である。

第4表 H4号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(14.6) (8.7) 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→手持 ちヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 10Y8/1(灰白) 外 10Y8/1(灰白)	1mm以下の白色粒子・3mm 以下の黒色粒子含む。 火だしき有。	床
2	土師器 甕	(20.8) — <11.6>	内 口縁部横ナデ・胴部焼けヘラナデ 外 胴部焼け→斜位ヘラケズリ→口縁部横ナ デ	I.縁部1/3残存 内 5Y6/4(にぶい橙) 外 5Y6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子少量含む。	東半2層 東半3層
3	土師器 甕?	(21.0) — <17.5>	内 口縁部焼けナデ→胴部焼けナデ 外 口縁部焼けナデ→胴部焼けケズリ	口縁部1/4残存 内 SYR6/4(にぶい橙) 外 SYR6/4(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子・白色 粒子少無含む。	東半1層 カマド
4	土師器 甕	(22.5) — <5.2>	内 口縁部焼けナデ→胴部焼けナデ 外 胴部焼けケズリ→口縁部焼けナデ	口縁部1/4残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子少量含む。	西半2層



第14図 H 4号住居址

5	土師器 甕	(20.0) — <9.5>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部ケズリ	口縁部1/4残存 内 SYR5/4(にぶい赤褐) 外 SYR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	東半2層 東半3層 P2
6	土師沿 甕	— — <19.8>	内 口縁部横ナデ→胴部横粒ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・胴部横粒ケズリ	胴部1/4残存 内 7.SYR7/3(にぶい橙) 外 7.SYR7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子少量含む。	カマド 東半2層
7	種類	長さ	巾	厚さ	目	備考
	磨石	9.2	6.3	3.1	322	磨灰岩

## 5) H5号住居址 (第15図、第5表、図版3・12)

Bき1グリットの調査区東端にあり、住居址の北西部のみを検出した。やや南端が欠けるが、南北ほぼ476cmを測る。カマドは調査区域外にあるものと推測され、軸方位はN-17°-Wを測る。覆土はロームを主体とした土である。主柱穴は北西のP1のみが検出され、径72cm、深さ60cmの円形ピットにさらに径36cmの円形の堀方をもち、径24cmの柱痕がみられた。壁下には周溝が巡っている。

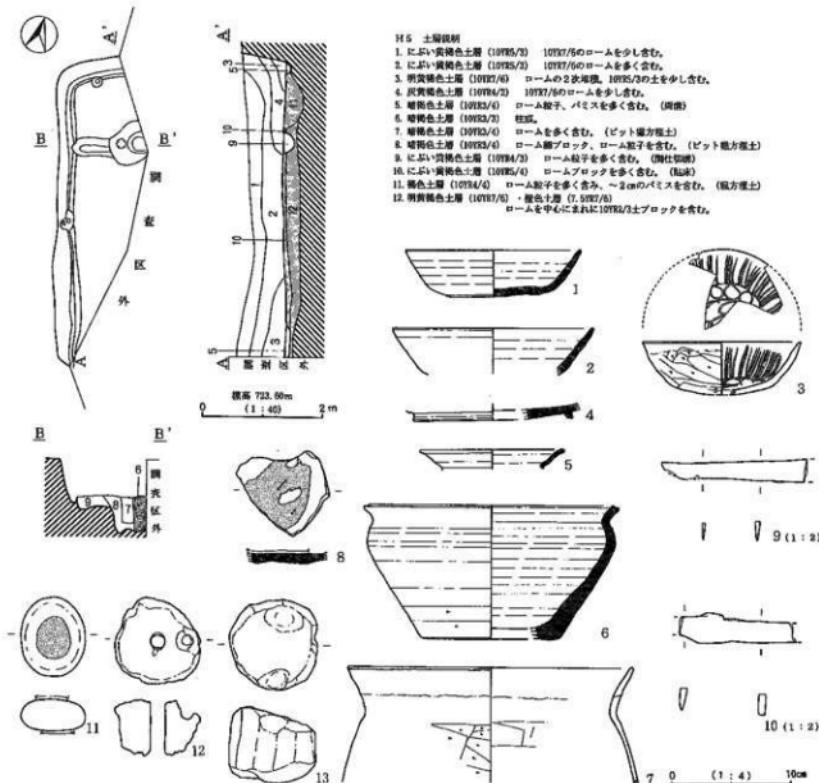
出土遺物には須恵器杯(1・2・8)、高台付杯(4)、瓶(5)・鉢(6)、土師器杯(3)・武藏甕(7)、鉄製刀子(9・10)、スリ石(11)、軽石製浮子(12)、軽石製調整用支脚石(13)がある。

須恵器杯はロクロ調整され、底部は回転ヘラ切りされ、わずかにナデが加えられている。8の杯も底部は回転ヘラ切りである。4の須恵器高台付杯の高台は細く外傾し、高台底面は凹み、外側が接地する。5は瓶類の口縁部と推測される。6は鉢で、ロクロ調整され、底部は手持ちヘラケズリされる。3の土師器杯は平底に近い丸底で、外面口縁部横ナデ、体部ヘラケズリされる。内面はナデ調整後、縦内系暗文が施される。7の上師器甕は武藏甕で口縁部形態は「く」の字形態である。鉄製刀子は同個体であるが直接つながらない。8は須恵器杯の転用鏡であろうか内面が腐耗し、やや黒ずんでいる。

これらの土器は奈良時代のものであろう。

第5表 H5号住居址出土遺物-一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色病	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	14.5 7.6 3.9	内 ロクロナデ→ナデ 外 ロクロナデ→回転ヘラ切り→ナデ	口縁部・底面7/8残存 内 7.SYR7/3(にぶい橙) 外 7.SYR7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、1mmの黒色粒子含む。	北床、瓶方
2	須恵器 杯	(16.8) — <3.8>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁部1/8残存 内 10SYR7/3(にぶい黄橙) 外 SYR8/2(灰白)	1mm以下の赤色粒子含む。	西
3	土師器 杯	(13.2) (8.4) 4.4	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→体・底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 SYR7/4(にぶい橙) 外 SYR7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子含む。 内面に幾内型暗文あり。	東半2層、西
4	須恵器 高台付杯	— (13.2) <1.3>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し→回転ヘラ ケズリ→高台貼付	底面1/6残存 内 2.SYR1(黄灰) 外 NS5/0(灰)	1mm以下の赤色粒子含む。 外面上に自然釉付着。	西
5	須恵器 甕?	(12.0) — <1.7>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁部1/4残存 内 N7/0(灰白) 外 N6/0(灰)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子含む。 外面上に自然釉付着。	東半2層、西
6	須恵器 鉢	(21.2) (11.3) 11.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→胴下半部回転ヘラケズリ ・底部→手持ちヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 N6/0(灰) 外 N6/0(灰)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	西
7	土師器 甕	(23.8)	内 口縁部横ナデ・胴部横粒ケズリ 外 口縁部横ナデ・胴部横粒ケズリ	口縁部1/10残存 2.SYR6/6(灰)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	西
8	須恵器 鉢 (板用鏡?)	— <1.0>	内 腐耗する 外 底部回転ヘラ切り	破片 内 SYR8/1(灰白) 外 SYR8/1(灰白)	1mm以下の褐色粒子含む。	西
番号	種類	長さ	巾	厚さ	目	備考
9	鉄製刀子	<6.0>	0.9	0.2	2.5	
10	鉄製刀子	<4.8>	1.2	0.3	6	
11	磨石	6.5	5.4	2.6	128	砂岩
12	浮子	7.0	7.0	4.6	78	軽石製
13	支脚石	7.5	7.3	6.4	90	軽石製。面取りしてある。



第15図 H5号住居址

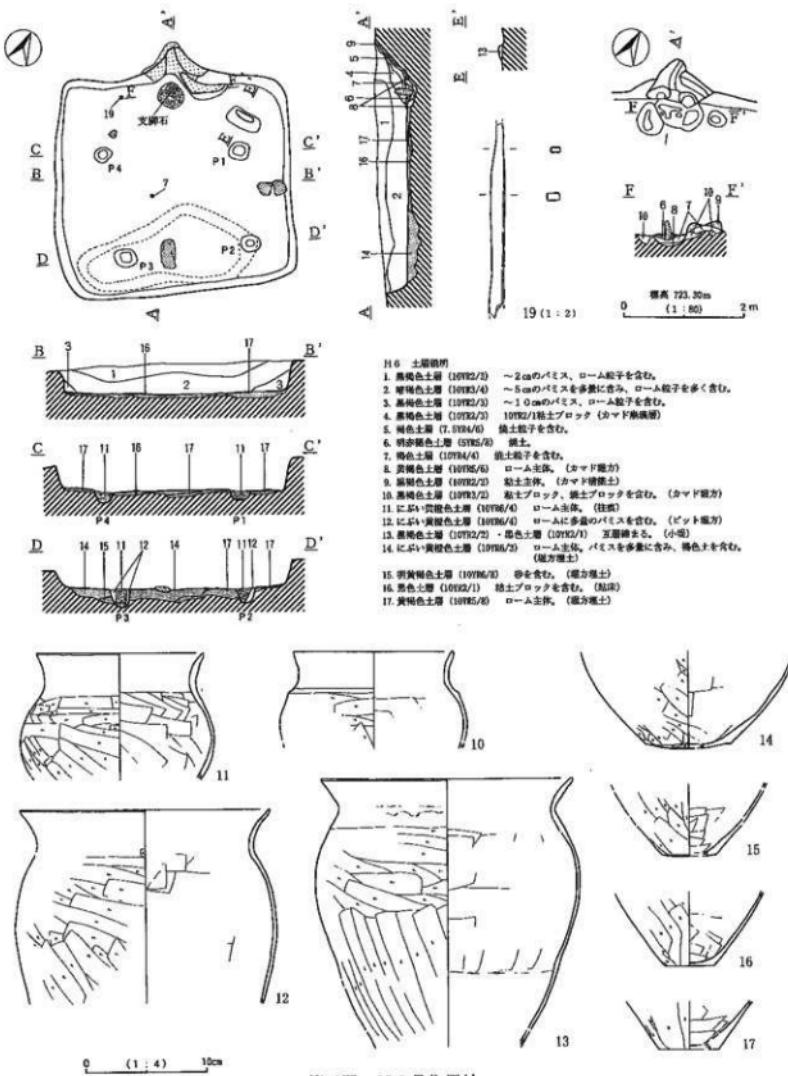
## 6) H6号住居址 (第16・17図、第6表、図版4・13)

Bコ1グリットにあり、F8を切る。南北348cm、東西364cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-28°-Wを測る。壁残高は45cmあり、残りの状態は良好である。カマドは天井・袖部とともに崩壊し、火床部と煙道下部が残存した。カマド壠方からカマドの内幅みると60cmを測る。主柱穴はP1-P4で、短径は26-28cm深さ14-30cmの梢円形のピットである。柱穴は浅いものである。北東には長さ56cm幅28cmを測帶状の床面より6cmほど高くなつた貼床がみられた。床面は中央部が締まっており、壠方は浅く南側だけ深くなっている。

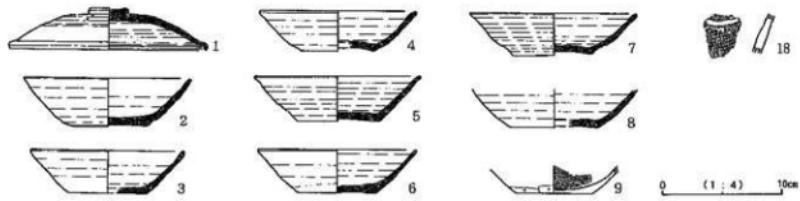
出土遺物には須恵器蓋(1)・杯(2-8)、土師器杯(9)・小型甕(11-10)・甕(12-17)、繩文上器(18)、鉄製刀子(19)がある。

1の須恵器蓋は扁平な紐が付き、口縁端部が折れ曲がっている。ロクロ調整、天井部上面は2周ほど回転ヘラケズリされている。2-8の杯はロクロ調整され底部は回転糸切りによる切り離しのままである。2-8は灰白色を呈しているが他は黒色が強い。9の土師器杯は口縁部を欠損している。内面はミガキ調整、外面横ナデ、体下部と底部は

手持ちハラケズリされている。土師器窓はいずれも武藏窓であり、10・11の小型窓と12の窓は口縁部形態が「コ」の字、13は「く」字形態を呈している。これらは奈良時代末～平安時代の土器群であろう。



第16図 H 6号住居址



第17図 H6号住居址

第6表 H6号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	決量	成形・調整	残存部・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(16.5) 3.3 3.4	内 ロクロナダ→つまみ貼付・大井彌回転 外 ヘラケズリ	つまみ完全、口縁部1/8残存 内 SYRS/1(にぶい赤褐)、 外 NS/0(灰)	1mmの赤色粒子を多量含む。	カマド
2	須恵器 杯	13.9 6.3 4.1	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	口縁部2/3、底部ほぼ完形 内 2.5GY7/1(明オリーブ灰) 外 2.5GY7/1(暗オリーブ灰)	3mm以下の黒色粒子多く含む。 火だすき有。	I区2層
3	須恵器 存	(12.8) (6.6) 3.6	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	口縁部・底部1/4残存 内 NS/0(灰) 外 NS/0(灰)	0.5mm以下の白色粒子多量含む。 3~8mmの小石含む。 火だすき有。	IV区2層
4	須恵器 存	(13.0) (6.2) 3.3	肉 ロクロナダ→底部回転糸切り	口縁部・底部1/4残存 内 NG/0(灰) 外 NG/0(灰)	0.5mm以下の白色粒子、黒色粒子少量含む。	I区トレ II区2層
5	須恵器 杯	13.8 (6.8) 3.7	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	I口縁部1/2、底部3/4残存 内 10GY6/1(黄灰) 外 10GY6/1(黄灰)	1mm以下の白色粒子、2mm以下の黒色粒子含む。 火だすき有。	I区2層、II区1層、II区2層、カ マド、I区トレ
6	須恵器 杯	(13.2) (6.4) 3.6	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	口縁部・底端1/2残存 内 7.5GY/1(灰) 外 7.5GY/1(灰)	1mm以下の白色粒子多く含む。 火だすき有。	I区1層 I区2層
7	須恵器 杯	13.9 6.6 3.5	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	口縁部7/8残存、腹部丸形 10BGG/1(青灰)	2mm以下の黒色粒子多く含む。 火だすき有。	
8	須恵器 杯	— (7.3) <3.1>	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部回転糸切り	底部1/2残存 内 SY7/1(灰白) 外 SY7/1(灰白)	1mmの黒色粒子、赤色粒子含む。 火だすき有。	I区2層
9	土師器 杯	(6.3) <2.3>	内 ミガキ 外 輪削ケズリ→底部および底部外周手持ちへ タケズリ	底部1/2残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	0.5mm以下の白色粒子、黒色粒子、赤色粒子少量含む。	カマド
10	土師器 鉢	(13.2) <7.9>	内 口縁部横ナダ→胴部横位ヘラナダ 外 胴削ケズリ→口縁部横ナダ	口縁部1/4残存 内 SYR6/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR6/4(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド
11	土師器 鉢	(13.8) <10.4>	内 胴横削→斜位ヘラナダ→I口縁部横ナダ 外 口縁部横ナダ→胴部横ヘラナダ	I口縁部2/3残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	1mmの白色粒子、赤色粒子含む。	カマド
12	土師器 鉢	(20.6) <16.0>	内 I口縁部横ナダ→胴削(ヘラ)ナダ 外 胴削ケズリ→I口縁部横ナダ	口縁部1/4残存 内 SYR6/4(にぶい橙) 外 SYR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色粒子含む。	カマド
13	土師器 鉢	(20.8) <22.2>	内 口縁部横ナダ→胴部横位ヘラナダ(測離 していて、既出判別できない) 外 胴削ケズリ→II口縁部横ナダ	口縁部1/4残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 SYR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド、I区1層、I区2層、II区1層、 II区2層
14	土師器 鉢	— (7.0) <5.0>	内 ヘラナダ 外 ヘラケズリ	底端1/2残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド、II区1層、 II区2層
15	土師器 鉢	(4.4) <6.0>	内 ヘラナダ(斜位) 外 ヘラケズリ(斜位)	底端2/3残存 内 SYR5/4(にぶい赤褐) 外 7.5SYR6/3(にぶい赤褐)	0.5mm以下の白色粒子少量含む。	カマド駆力 II区2層
16	土師器 鉢	— (4.0) <6.1>	内 ヘラナダ 外 ヘラケズリ(斜位)	底部1/4残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 SYR6/3(にぶい橙)	0.5mm以下の白色粒子、赤色粒子、黒色粒子少量含む。	カマド駆力 II区2層
17	土師器 鉢	(4.8) <4.0>	内 ヘラナダ 外 ヘラケズリ	底部3/4残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含む。	カマド カマド駆力 II区2層
18	陶文上器 鉢				備 考	出土位置
番号	種類	長さ	巾	厚さ	重	
19	鐵製刀子				60	

## 6) H7号住居址(第18~20図、第7表、図版4・5・6、図版4・5・13)

B < 4グリットにあり、南北428cm、東西436cmの方形を呈し、壁残高は50cmを測る。カマドは北壁中央よりやや西に寄っている。主軸方位はN-5°-Wを指す。床面には灰・焼土がみられ焼失家屋であるため土器が多く残されていた。カマドは崩壊していたが、煙道部は下に沈んでいるものの旧状を留めていた。カマドは地山を残して袖芯とし、先端には袖石を置いたようである。検出時西側の袖は袖石を残したまま土は少し西に動いていた。そのため袖石と粘土がずれている。煙石はP4の東にある。北方向からの急激な堆積によりカマドが崩壊した様子がわかる。焚口の内幅は40cmを測る。火床面には灰が残っていた。主柱穴はP1~P4である。ピットの堀方が2重にあり、径44~56cm、深さ40~50cmを測る円形または椿円形の中に、径28~36cmのほぼ円形のピットが掘り込まれ、径16~22cmの柱痕がみられた。南壁下中央には径38cm深さ12cmの出入り口の落ち込みがある。壁下には周溝が巡っている。床面はロームを入れて貼っているが焼失家屋のためか縮まっている。

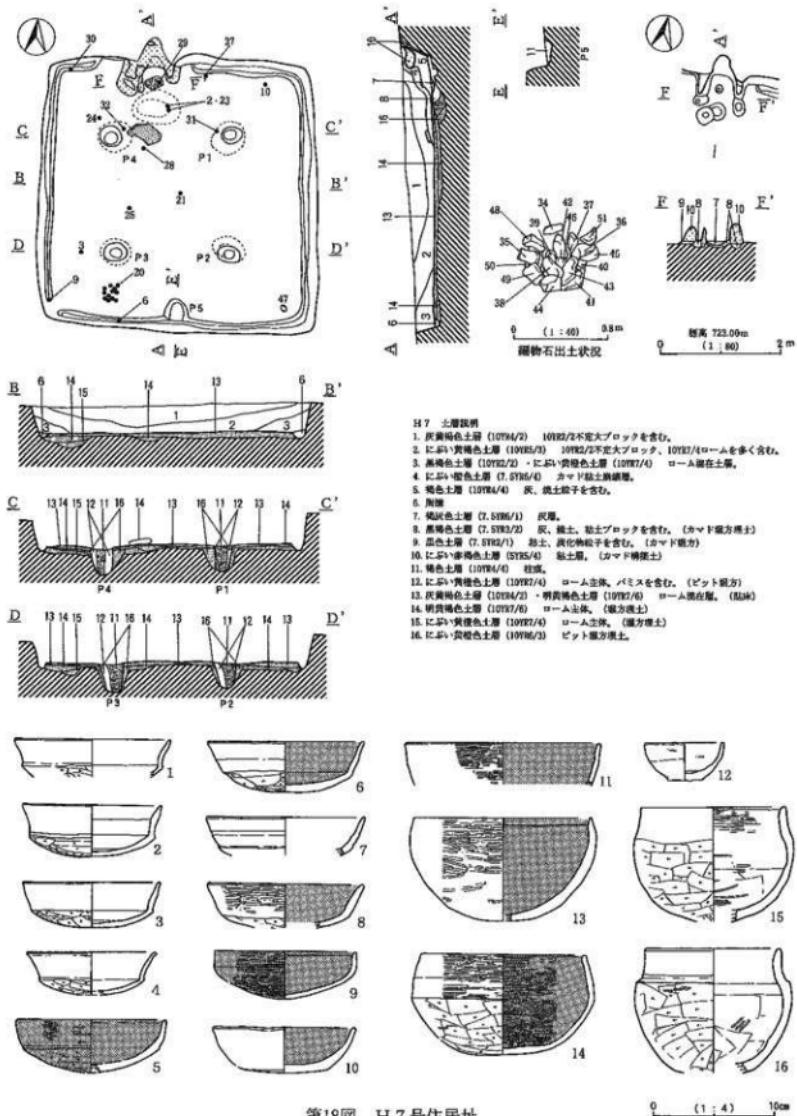
出土遺物には土師器杯(1~10)、小楕(12)、鉢(11・13~22)、長胴甕(23~29)、丸胴甕(30)、瓶(31・32)凝灰岩製砥石(33)、織物石(34~51)がある。土師器杯は1~4が須恵器杯蓋模倣杯である。橙色の胎土が粉末質で小振りな杯である。内面はナデ、外面口縁部横ナデ底部へラケズリ調整される。3は底部と口縁の外稜は調整の差異による外縁となっている。焼成もいくらかあまい。5~8は須恵器杯蓋模倣杯であるが、内面ミガキ黒色処理されるもので、外表面は口縁横ナデ底部へラケズリされた後ミガキが施される。器肉は厚い。9は黒色土器で、内外面ミガキ黒色処理される。10は底平に近い杯で、外縁を持って口縁が立ちあがる。12は楕の小型品で横ナデされ、わずかにミガキがある。この中で完形に近いものだけを挙げると、杯では2・3・9・10・12である。5~8・10の杯は磨耗が著しく、6が1/2、10が4/5残存するが、1/3~1/4程度の残りである。後者は少々古い段階に位置づけられるのであろうか。鉢は13・17・20~22がほぼ完形の土器である。13は体部球形で端部だけつまんで直立させている。14~15は須恵器杯身の模倣であろうか口縁が内傾する。17は小形甕でもよいかもしれない。20は織物石の側から出土し、ミガキ調整される。21は大きい鉢で、内面半分は黒色を呈しミガキ黒色処理されたものであろうか。22の小型の鉢はミガキ調整は部分的でナデ調整黒色処理される。長胴甕は底部まである25・28・29が使用されていた甕であろう。25は口縁が外反し、胴部形が砲弾形である。最大径は口縁にある。長胴化が進み器高は40cmを測る。28・29は鉢型に近い甕で口径が大きい。口縁は短く外反し、黒色を呈す。23の甕は口縁が大きく強く外反し、胴部はヘラケズリされ胴下部は細い器形である。24は23より口縁が短く胴下部もすさまらない。26・27の甕は中型の甕で平底を呈し、27は木葉痕が残る。甕は鉢形で、多孔(31)と單孔(32)がある。ミガキ調整はわずかにみられるがナデ調整に近いものである。28・29の甕にセッティングするには小さい甕である。23~26の甕と大きさが合っている。30の丸胴甕はケズリ・ハケ目を残しミガキ調整される。

南西床面からは18個(34~51)の織物石が示したようにまとめて出土している。

これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第7表 H7号住居址出土遺物一覧表

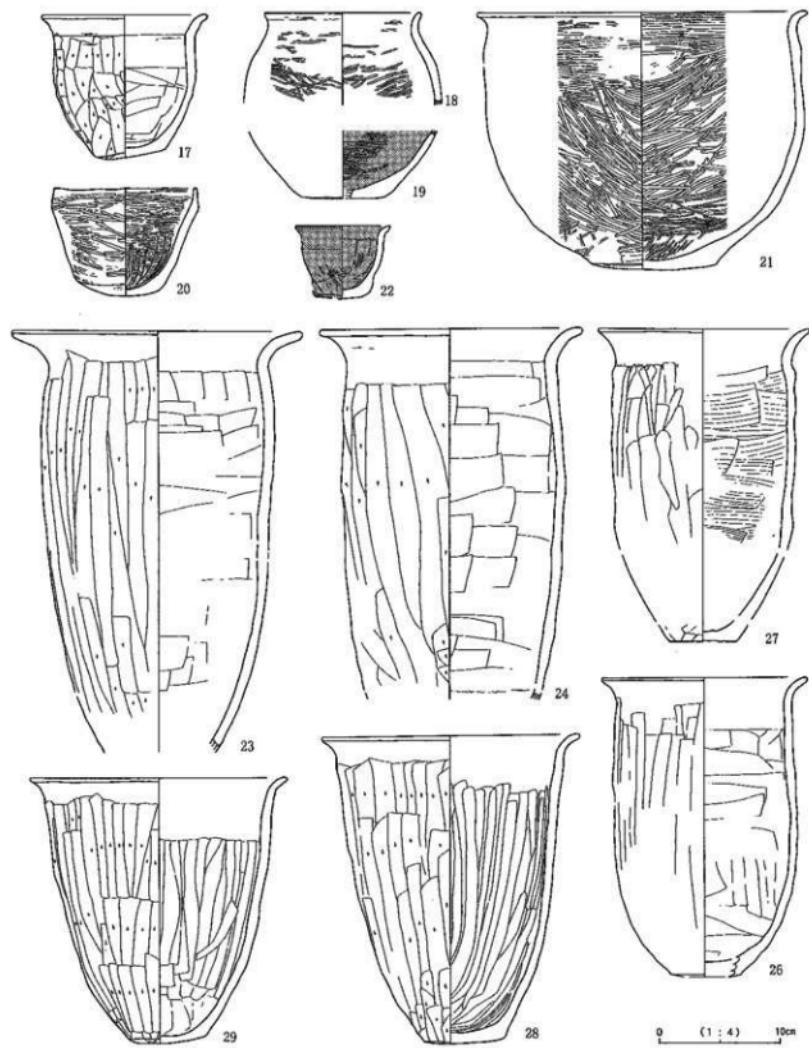
番号	器種	法量	成形・調整	残存部・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.9) (11.6) <3.2>	内 横ナデ 外 口縁横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/4残存 内 2.5YR6/6(1個) 外 2.5YR6/6(1個)	緻密。1mmの白色粒子、黒色粒子少量含む。	カマド
2	土師器杯	11.4 10.3 4.4	内 みごみごナデ→口縁横ナデ 外 口縁横ナデ→底部窓いケズリ	口縁部2/3残存、底部完形 内 2.5YR7/6(1個) 外 2.5YR7/6(1個)	緻密。1mm以下の赤色粒子、黒色粒子少量含む。	Ⅳ区1層 Ⅳ区2層 Ⅳ区3層
3	土師器杯	11.3 10.0 3.8	内 みごみごナデ→口縁横ナデ 外 口縁横ナデ→底部ケズリ	完形 内 SYR7/6(1個) 外 SYR7/6(1個)	1mmの赤色粒子、黒色粒子、白色粒子少量含む。 緻密。	Ⅳ区2層 Ⅳ区3層
4	土師器杯	(16.0) (6.0) 3.5	内 横ナデ 外 口縁横ナデ→底部ナデ	口縁部1/4残存 内 SYR7/6(1個) 外 SYR7/6(1個)	緻密。 外縁磨耗している。	カマド
5	土師器杯	(12.4) (11.1) <4.4>	内 刻痕、磨耗著しく判別できない(黒色処理) 外 口縁横ミガキ・底部ケズリ(黒色処理)	口縁部1/4、底部1/3残存 内 10YR7/2(にぼい黄緑) 外 10YR7/1(灰白)	1mm以下の赤色粒子、白色粒子、黒色粒子少量含む。	Ⅰ区1層
6	土師器杯	13.0 10.7 4.2	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/2残存 外 10YR8/3(浅黄褐色)	1mmの白色粒子、黒色粒子、白色粒子含む。 没あり。	
7	土師器杯	(13.2) (11.0) <3.2>	内 ミガキ(位置はわからない) 外 口縁横ナデ・底部ナデ 内面剥離やすい。 外縁磨耗やすい。	口縁部1/6残存 10YR7/4(にぼい緑)	1mm以下の赤色粒子、白色粒子、黒色粒子含む。 沈継あり。	Ⅳ区トレ
8	土師器杯	(13.1) (10.7) <3.6>	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁横ミガキ・底部ケズリ	口縁部1/2残存 外 7.5YR7/3(にぼい緑)	1mmの黒色粒子、白色粒子含む。 3mm以下の白色粒子含む。	Ⅳ区



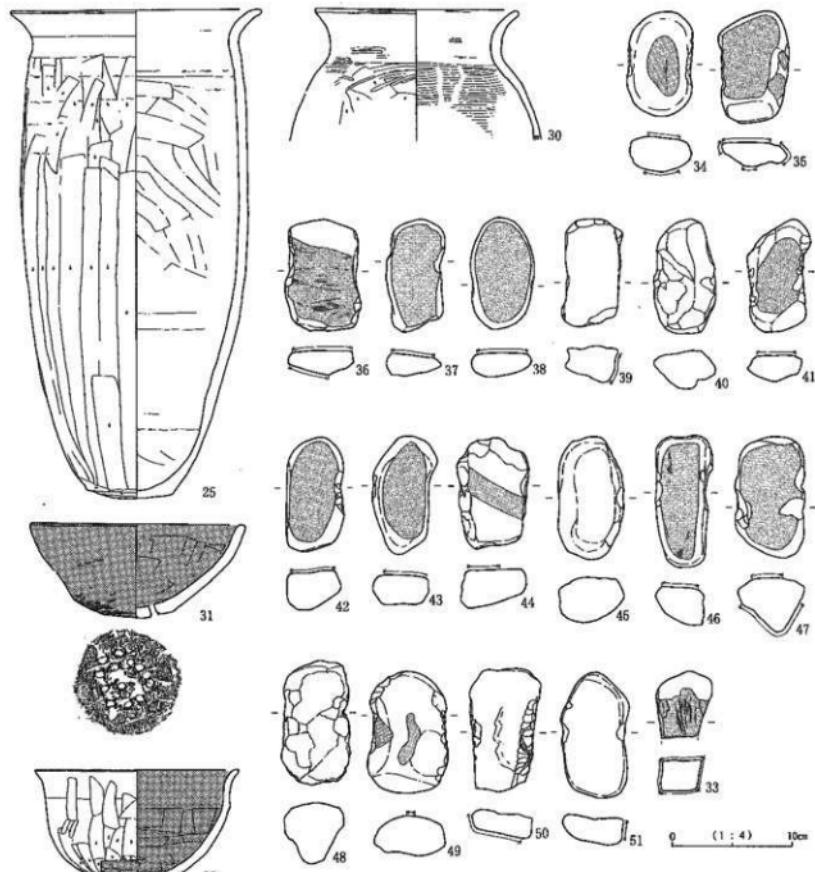
## H 7 土層説明

- 灰褐色土層 (10794/2) 10792/2 不定大ブロックを含む。
- にぶく黄褐色土層 (10795/3) 10792/2 不定大ブロック、10793/4 ロームを多く含む。
- 黒褐色土層 (10792/2) にぶく黄褐色土層 (10797/4) ローム混在土層。
- にぶく黄褐色土層 (7.576/6) ブロック状土層。
- 褐色土層 (10794/4) 残土、洗土粒子を含む。
- 黒褐色土層 (7.576/4) 残土。
- 灰褐色土層 (7.576/2) 残土、粘土、粘土ブロックを含む。〔カマド竪方壁土〕
- 黒褐色土層 (7.576/1) 粘土、洗出物粒子を含む。〔カマド底土〕
- にぶく歩道地土層 (5795/4) 砂土層。〔カマド排水土〕
- 褐色土層 (10794/4) 残土。
- にぶく黄褐色土層 (10797/4) ローム主体、バミを含む。〔ビット竪方〕
- 灰褐色土層 (10794/2) 明黄色土層 (10797/6) ローム混在層。〔粘土〕
- 明黄色土層 (10797/6) ローム主体。〔竪方底土〕
- にぶく黄褐色土層 (10797/4) ローム主体。〔竪方底土〕
- にぶく黄褐色土層 (10796/3) ビット竪方底土。

第18図 H 7 号住居址



第19図 H 7 号住居址



第20図 H 7号住居址

9	土解器 杯	(11.8) 3.9	内 ミガキ→黒色処理 外 ミガキ→黒色処理	口縁部3/4残存 黒色	1 mm以下の白色粒子含む。	Ⅲ区 3層
10	土解器 杯	(11.9) 7.0 3.8	内 ミガキ→黒色処理 外 ナデ	底部ほぼ完形 外 7.5mm/2(側脚底)	1 mmの赤色粒子、1 mm以下の 白色粒子、黒色粒子を含む。 外面磨耗。	
11	土解器 鉢	(16.2) <3.6>	内 ミガキ→黒色処理 外 ミガキ	口縁部1/6残存 外 7.5mm/4(にぶい底)	1 mm以下の白色粒子含む。	検出

12	土師器 小鉢	6.6 2.8 3.2	内 外	みこみ部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	完形 内 10YR7/3(にほい黄緑) 外 10YR7/3(にほい黄)	1mmの白色粒子含む。2mm 以下の小石少量含む。	IV区1層
13	土師器 鉢	(14.8) 8.5	内 外	ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/3残存 外 7.5YR7/3(にほい橙)	1~2mmの赤色粒子、黒色 粒子含む。	II区2層 II区3層
14	土師器 鉢	(13.8) 5.1 8.3	内 外	ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/3残存 内 7.5YR7/3(にほい黄) 外 10YR7/1(褐色)	1~2mmの赤色粒子、白色 粒子、黒色粒子含む。	II区1層
15	土師器 鉢	(12.0) — <9.4>	内 外	口縁部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→ケズリ 外面部軽度化い	口縁部1/3残存 内 10YR7/2(にほい黄緑) 外 10YR7/2(にほい黄緑)	1~2mmの白色粒子、赤色 粒子、黒色粒子含む。 磨耗。	I区2層 I区3層
16	土師器 鉢	(11.4) (6.3) <10.2>	内 外	底部横位→斜位へラナデ→I口縁部横ナ デ→ミガキ 口縁部横ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5YR7/3(浅黄緑) 外 5YR7/3(淡焼)	1~2mmの白色・黒色粒子 含む。	II区2層 II区3層
17	土師器 鉢	(13.8) 5.7 11.9	内 外	胴→底部へナデ→口縁部→胴一部平部 横ナデ→口縁部ミガキ 口縁部横ナデ→胴・底部ケズリ	口縁部1/4残存、底部完形 内 10YR7/3(にほい黄緑) 外 5YR7/3(にほい橙)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。 1~2mmの小石含む。	I区2層 III区 IV区2層
18	土師器 鉢	(13.0) — <7.5>	内 外	口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 内 7.5YR7/4(浅黄緑)	綿密。 1mmの赤色粒子少量化む。 外向観察。	IV区2層
19	土師器 鉢	(6.8) <5.6>	内 外	ミガキ→黒色処理 ミガキ(ただし、摩滅著しく単位の判 別不能) 黒色処理か?	底部1/2残存 10YR7/1(褐色)	1mm以下の白色粒子多く含 む。	III区3層
20	土師器 鉢	11.7 6.7 8.9	内 外	ミガキ ミガキ	完形 内 2.5YR7/4(にほい橙) 外 7.5YR7/3(にほい橙)	1mmの白色粒子、黒色粒子、 赤色粒子含む。	
21	土師器 鉢	27.4 10.3 21.2	内 外	ミガキ→黒色処理か ミガキ	口縁部7/8残存 7.5YR7/4(にほい橙)	1~2mmの白色粒子含む。	I区2層
22	土師器 小鉢	(7.8) 4.7 6.0	内 外	口縁部横ナデ→胴一部へナデ→部分 的にミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→口縁部横ナデ部分的 にミガキ→黒色処理	口縁部1/4残存、底部完形 10YR7/0(明黄緑)	1mmの白色粒子多く含む。	I区1層
23	土師器 鉢	24.0 <33.9>	内 外	口縁部横ナデ→胴部横位へナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ケズリ	口縁部1/2残存 内 10YR7/3(にほい黄緑) 外 10YR7/3(にほい黄緑)	2mm以下の白色粒子多く含 む。 2~5mmの白い小石を多く 含む。	I区1層 檢出
24	土師器 鉢	21.7 <30.7>	内 外	口縁部横ナデ→胴部横位へナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ケズリ	口縁部完形 5YR7/8(明赤褐)	3.5mm以下の白色粒子少量化 む。 小石少量含む。	III区3層 II区2層
25	土師器 鉢	20.8 7.1 40.2	内 外	口縁部横ナデ→胴一部ナデ 口縁部横ナデ→胴、底部ケズリ	底部完形 7.5YR7/4(にほい橙)	1~2mmの白色粒子、赤色 粒子含む。	III区2層
26	土師器 鉢	17.0 (5.8) 24.6	内 外	胴→底部へラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→口縁部横ナデ	口縁部横位完形 5YR7/4(にほい橙)	1mmの白色粒子、黒色粒子、 赤色粒子含む。	I区1層 IV区3層
27	土師器 鉢	(17.6) 5.4 25.7	内 外	口縁部横ナデ→胴→底部へナデ I口縁部横ナデ→胴、底部ナデ(木茎附 物を削除)	西部形、口縁部1/2残存 5YR7/4(にほい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、黒色粒子含む。	IV区1層 IV区2層 IV区3層
28	土師器 鉢	21.2 6.5 25.5	内 外	I口縁部横ナデ→底部胴→底位ナデ 口縁部横ナデ→底部胴、底位ケズリ	口縁部、底部完形 内 10YR7/2(にほい黄緑) 外 10YR7/0(にほい黄緑) N2.0(褐色)	4mm以下の白色粒子多く含 む。	IV区3層
29	土師器 鉢	21.2 6.1 21.8	内 外	口縁部横ナデ→胴→底部ナデ 口縁部横ナデ→胴、底部ケズリ	底部完形 内 10YR7/2(灰白) 外 10YR7/2(にほい黄緑) N3.0(褐色)	1~2mmの白色粒子を多く 含む。	
30	土師器 鉢	16.8 — <10.8>	内 外	口縁部横ナデ→ミガキ、底位ハケナデ 部横ナデ→ミガキナデ→ミガキ→口縁 部横ナデ	口縁部完形 7.5YR7/3(にほい橙)	1mmの赤色粒子含む。	II区2層
31	土師器 鉢(多孔)	(17.9) 8.2 7.8	内 外	口縁部横ナデ→ミガキ、底位ハケナデ 部横ナデ→ミガキ→黒色処理 ミガキ→黒色処理	口縁部3/4残存 2.5YR5/1(赤紅)	1mm前後の白色粒子、黒色 粒子含む。 焼成前に穿孔。(15個)	
32	土師器 鉢(一孔)	16.8 4.8 9.3	内 外	胴→底部へナデ→口縁部横ナデ→黒 色処理 胴→底部ケズリ→ナデ→I口縁部横ナデ	完形 外 5YR7/4(にほい橙)	1mm前後の白色粒子、白色 粒子、黒色粒子含む。 焼成前に穿孔。	

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
33	砥石	5.5	4.6	2.6	122	磨研岩	Ⅱ区3層
34	織物石	8.5	5.5	3.0	200	撓面あり。安山岩。	
35	織物石	9.2	5.9	2.0	168	撓面あり。安山岩。	
36	織物石	9.1	6.2	2.0	182	撓面あり。安山岩。	
37	織物石	9.3	4.9	1.8	148	撓面あり。安山岩。	
38	織物石	9.3	5.1	2.0	132	撓面あり。安山岩。	
39	織物石	8.9	5.0	3.0	170	撓面あり。安山岩。	
40	織物石	9.4	5.2	3.2	176	安山岩。	
41	織物石	9.3	5.3	2.2	144	撓面あり。安山岩。	
42	織物石	9.3	4.8	3.2	206	撓面あり。安山岩。	
43	織物石	9.7	5.4	2.5	174	撓面あり。安山岩。	
44	織物石	9.1	5.9	3.2	212	安山岩。	
45	織物石	10.2	5.4	3.8	248	安山岩。	
46	織物石	10.8	4.8	3.1	234	撓面あり。安山岩。	
47	織物石	10.0	5.9	4.6	314	撓面あり。安山岩。	
48	織物石	10.3	5.7	5.0	388	安山岩。	
49	織物石	10.1	6.6	3.3	290	花崗岩。撓面あり。	
50	織物石	10.2	5.8	2.3	174	撓面あり。砂岩	
51	織物石	10.3	5.7	2.6	200	撓面あり。安山岩。	

## 8) H8号住居址(第21・22図、第8表、図版6・14)

Dある3グリッドにあり、南北452cm、東西484cmの東西に長い方形を呈し、壁残高は50cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-28°-Wを指す。カマドは粘土で構築され、両袖と煙道が残っていた。カマド焚口の内幅44cmを測る。主柱穴はP1-P4の4本である。短径56~70cm深さ60~72cmの円形または楕円形の大きい壠方に、短径で34~54cmの楕円形ないし円形のビット掘っている。P2とP3に柱痕がみられ、径24cmを測る。カマドの東脇にはP7・P8の径44cm深さ8cm、径28cm深さ12cmの円形小ビットがみられた。また南壁下に径28cm深さ18cmと径18cm深さ12cmを測る円形の入り口ビットがあった。床面はロームと黒褐色土ブロックで貼り床し、周辺部は深く掘り下げ、中央部に高く地山を残す壠方であった。

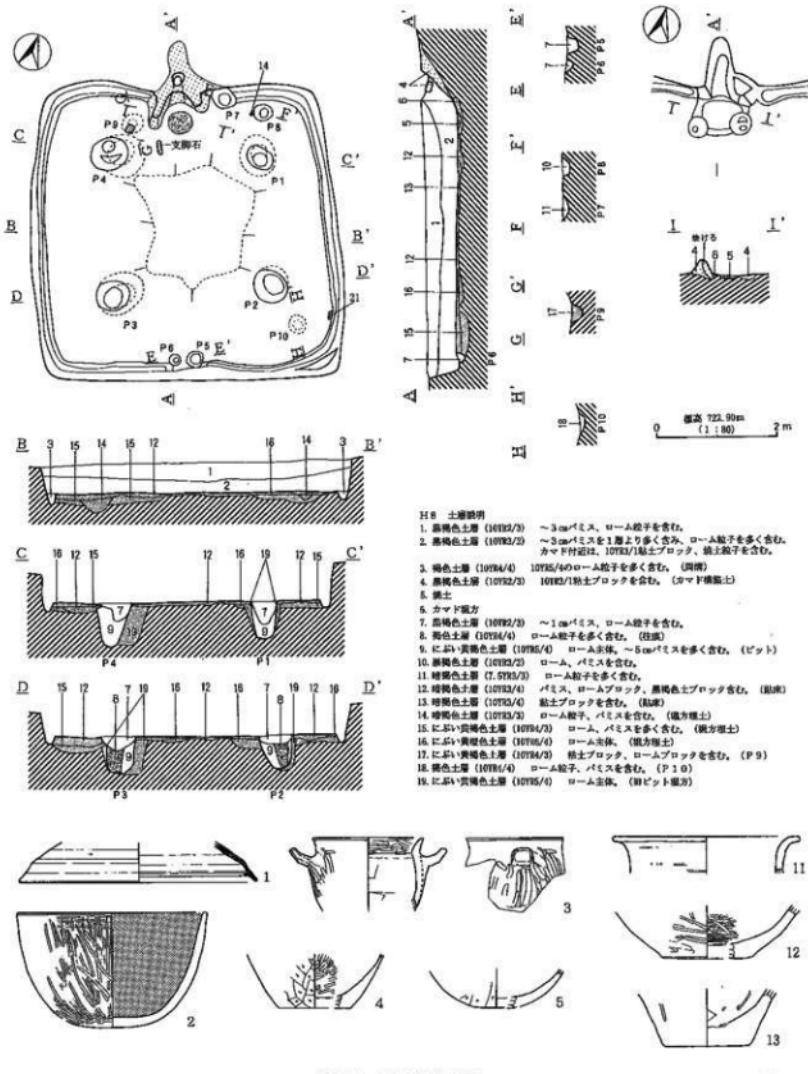
出土遺物には須恵器蓋(1)・甕(6)・瓶(16)・杯(17)・土師器鉢(2)・把手付鉢(3)・甕(4・5・10・11・13~15)・丸胴甕(7・8・9・12)・繩文土器(18)・鉄製品(19)・スリ石(20・21)の2点がある。

1の須恵器蓋はかえりがあり、天井部は回転ヘラケズリされる。6の甕は器肉が薄く、口縁端部は帯状をなし、調部タタキ目後口縁部が横ナデされる。内面はナデ調整である。16は瓶の底部であるうかナデ調整される。17は杯底部で、底部回転ヘラケズリ後刻畫される。「郷」か文字は判読できない。土師器は杯がなく、2の鉢は内面ミガキ墨色処理される素口縁である。3は舌状の把手が付く。内面口縁部と外面部の一部がミガキ調整される。甕は古墳時代の厚手の長胴甕(11・13・15)と武藏甕(4・10・14)の両者がある。丸胴甕は7・8は同個体であるが接合点はない。磨耗が著しく、外面にミガキの痕跡が残り、内面底部はナデ調整される。9の丸胴甕口縁部は内外面ミガキ調整される。本住居址の遺物はいずれも破片で、完形品はない。

古墳時代後期の土器群であろうと推測される。

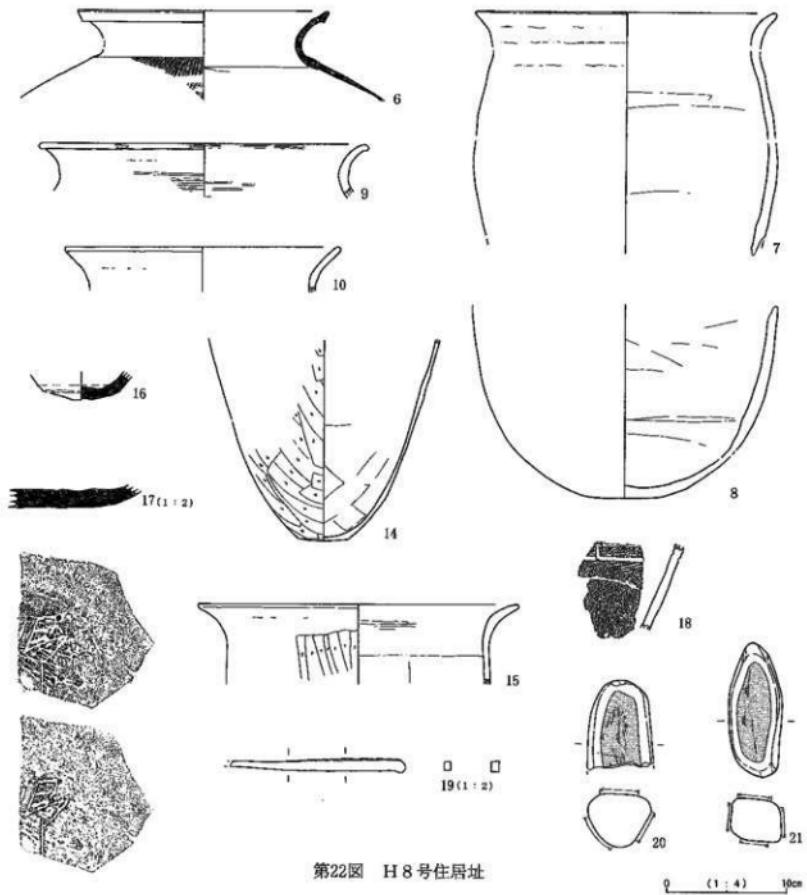
第8表 H8号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法化	成形・測定	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(10.7) — <3.3>	内 外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 N5/0(灰) 外 N6/0(灰)	2mm以下の白色粒子多量に 含む。 外面自然釉付着。	Ⅱ区1層 Ⅱ区2層
2	土師器 鉢	(15.8) — 9.5	内 外 ミガキ→墨色処理 ミガキ	口縁部1/4残存 10YR6/3(赤黄橙)	3mm以下の赤色粒子、1mm 以下の白色粒子含む。	Ⅱ区2層
3	土師器 鉢 (把手付)	(9.2) — <6.1>	内 外 口縁部横ミガキ・脚部横位ヘナダ 口縁部横ナデ・脚部ナデ→墨ミガキ	口縁部1/3残存 7.5YR7/6	1mm以下の赤色粒子、黑色 粒子を含む。	Ⅱ区1層



第21図 H 8号住居址

0 (1 : 4) 10cm



第22図 H 8号住居址

(1 : 4) 10cm

4	土解器 要 (6.0) <4.5>	内 ミガキ 外 ケズリ	底面1/4残存 内 2.5YR5/4(にぼい根) 外 5YR7/4(にぼい根)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子を少量含む。	II区 2層
5	土解器 要 (3.8) <3.2>	内 ナデ 外 ケズリ	底面1/2残存 内 10YR5/3(にぼい根) 外 7.5YR7/4(にぼい根)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、黑色粒子含む。	I区 2層
6	須煮器 要 (20.8) <7.3>	内 胸部ナデ→口縁部横ナデ 外 胸部タキ口→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 7.5YR1/6(赤)	1mm以下の白色粒子、黑色 粒子少數含む。	IV区 2層
7	土解器 要 (25.1) <19.9>	内 胸部横位→ラナデ 外 ミガキ(単位判別できない)	口縁部3/8残存 10YR7/3(にぼい、黄根)	1mmの赤色粒子、白色粒子 含む。 外面および内面口縁部縮減。 8と同一個体か?	I区 トレ I区 2層 IV区 1層 IV区 2層 カマド、検出

8	土師器 甕	— <15.8>	内 横位ヘラナデ 外 ミガキ(単位判別できない)	底部1/2残存 10YR7/3(にぶい黄緑)	1mmの赤色粒子、白色粒子 含む。 外側は緑、7と同一個体か?	I区1層 IV区2層
9	土師器 甕	(27.2) <4.4>	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁部1/8残存 7.5YR8/4(浅黄緑)	1mm以下白色粒子、赤色 粒子少量含む 内面剥離。	II区2層 IV区2層
10	土師器 甕	(22.8) <3.8>	内 横ナデ 外 横ナデ	口縁部1/4残存 7.5YR7/4(にぶい緑)	1mmの赤色粒子含む。	I区1層
11	土師器 甕	(15.6) <3.1>	内 横ナデ 外 横ナデ→一部ミガキ	口縁部1/8残存 10YR7/3(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	II区1層 IV区1層
12	土師器 甕	(7.7) <4.1>	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/6残存 内 7.5YR7/4(にぶい緑) 外 7.5YR8/3(浅黄緑)	断面。 白色粒子、黑色粒子含む。小石含む。 外側剥離著しい。	II区1層
13	土師器 甕	(7.0) <4.7>	内 ナダとミガキ 外 ミガキ	底部1/4残存 内 10YR4/1(褐色) 外 10YR8/3(浅黄緑)		II区1層
14	土師器 甕	— <16.5>	内 ハラナデ 外 ハラケズリ	底部完形 SYR7/4(にぶい緑)	1mm以下の白色粒子少量含む。	I区細方
15	土師器 甕	(26.6) <6.6>	内 口縁部横ナデ→ミガキ・脚部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→剥離横位ケズリ	口縁部1/10残存 10YR7/3(にぶい黄緑)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子少量含む。	III区トレ
16	須恵器 甕	(6.6) <2.4>	内 ロクロナデ→外面一部ナデ 外 ロクロナデ→外面一部ナデ	底部3/4残存 NG6/0(灰)	1mmの白色粒子、黑色粒子 含む。	I区1層
17	須恵器 甕	(8.6) <1.0>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ→キ ザミ日→崩壊		「郷」か。	I区1層
18	縄文土器 深鉢					II区1層
番号					備 考	出土位置
19	鉄製品	<7.3>	長さ 巾 厚さ	40		II区2層
20	礫石	<7.4>	<5.5> 4.4	268	赤色顔料付着。敲打痕あり。安山岩。	I区1層
21	礫石	11.0	4.4 3.6	334	安山岩。	

## 2、掘立柱建物址

### 1) F1号掘立柱建物址（第23図、図版7）

Aこ4グリットにあり、4間×3間の東西棟で側柱式である。東西640cm、南北512cmを測る長方形を呈す。長軸方位はN-63°-Eを指す。南列は柱穴が1個多い。柱間は桁行きの狭いところで104~120cm、広いところで140~172cmと不規則である。梁間柱間は160cm~192cmを測る。柱穴はほぼ円形を呈し、24~44cm、深さ11~37.5cmを測る。明確な柱筋は認められなかった。

出土遺物はP3から武藏豐口縞部片が1点出土する。

### 2) F2号掘立柱建物址（第24図、図版1）

Cあ3グリットにあり、H1・F5と重複する。新旧は不明。不規則な柱穴の配列である。2間×2間かと推測されるがピット群と捉えた方がよいと思う。

### 3) F3号掘立柱建物址（第25図、図版7）

Aく6グリットにあり、古墳時代後期の住居址H2・M3に切られる。4間×2間の東西棟で側柱式である。東西728cm、南北440cmの長方形である。長軸方位N-67°-Eを指す。桁行き柱間160cm~216cm、梁行き柱間200cm~240cmを測る。柱穴は楕円形ないし円形を呈し、長径48~100cm、深さ42~79cmを測る。

出土遺物は、P1から土師器甕の内面ミガキ黒色処理片1点、P9からは土師器丸筒甕脛部片1点、P3から器種不明1点、これらは古墳時代後期の破片である。P6からは縄文の深鉢片1点がある。

### 4) F4号掘立柱建物址（第24図、図版7）

Aこ10グリットにあり、擾乱により、南西のピットが壊されていた。1間×2間の側柱式で、東西360cm、南北352cmの方形を呈する。長軸方位はN-75°-Eを指す。桁行き360cm、梁行き柱間は168cm~184cmを測る。柱穴は円形で、

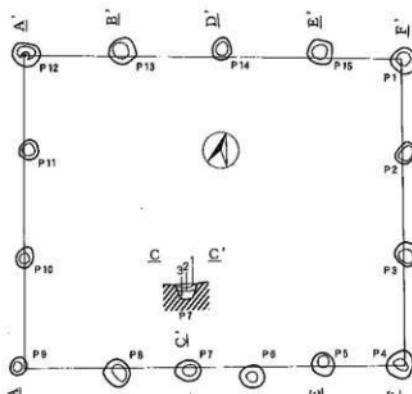
径56cm~68cm、深さ48~57cmを測る。径14~24cmの柱痕がみられた。  
出土遺物はない。

### 5) F6号掘立柱建物址 (第23図、図版7・14)

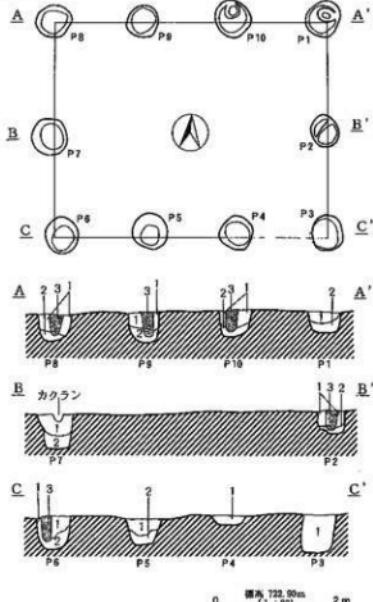
Bけ5グリットにあり、3間×2間の東西棟である。東西460cm南北360cmの長方形で長軸方位はN~80°-Eを指す。桁行き柱間は140cmと160cm、梁行き柱間は180cmである。柱穴は円形を呈し、径44~72cm深さ40~90cmを測る。柱痕は径20cmを測る。

出土遺物は、P7から縄文の浅鉢片、P9から外面にタタキのある須恵器甕胴部片が出土している。

F 1



F 6



標高 729.90m 2 m  
(1:80)

#### F 6 土層説明

1. 基礎色土層 (10YR5/2) 10YR5/4ロームを少し含む。
2. 基礎色土層 (10YR5/4) ローム2次堆積。10YR5/2土を少し含む。
3. 基礎色土層 (10YR5/2) 砂質。



D

1 (1:4)

#### F 1 土層説明

1. 基礎色土層 (10YR5/2) 1mバニス、ローム粒子をわずかに含む。
2. 基礎色土層 (10YR5/2) 1mより褐色。
3. 基礎色土層 (10YR5/2) 1mバニスを多く含み、ローム粒子を含む。

標高 724.30m 2 m  
(1:80)

第23図 F 1・F 6号掘立柱建物址

## 6) F7号掘立柱建物址 (第24図、図版7)

Dえ2グリットにあり、西側は調査区域外である。掘立柱建物址の東端を調査した。規模は不明、一×2間の梁行きは440cmを測る。軸方位はN-38°-Wを指す。柱穴は円形を呈し、径48-64cm深さ27-29cmを測る。

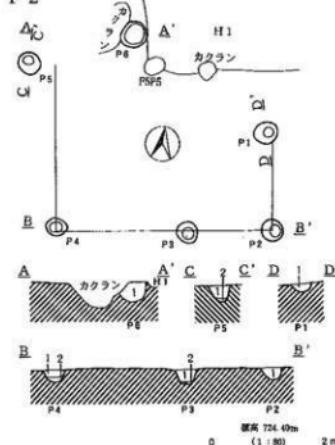
出土遺物はない。

## 7) F8号掘立柱建物址 (第25図、図版7)

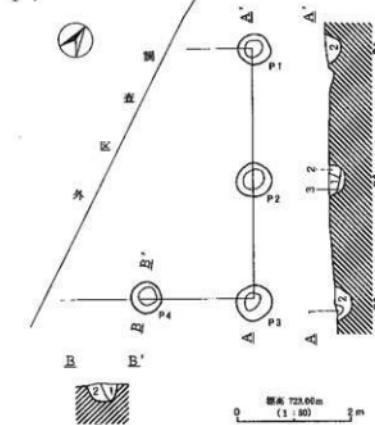
Bけ1グリットにあり、奈良末・平安初頭の豎穴住居址H6に切られている。3間×2間の南北棟で長軸方位はN-25°-Wを指す。桁行き柱間140-180cm梁行き柱間246cmを測る。柱穴は円形基調で、径44-60cm、深さ13-43cmを測る。

出土遺物はない。

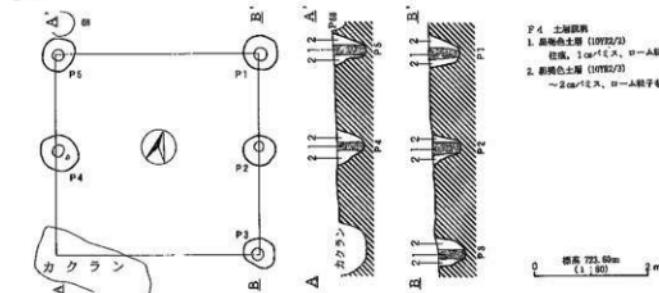
F 2



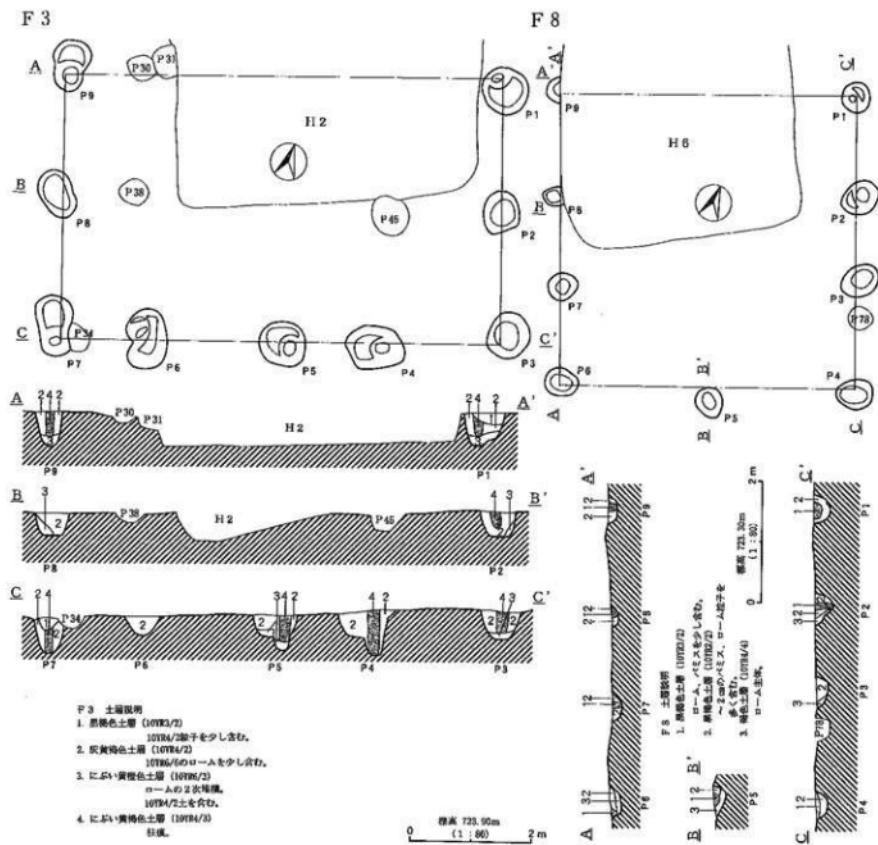
F 7



F 4



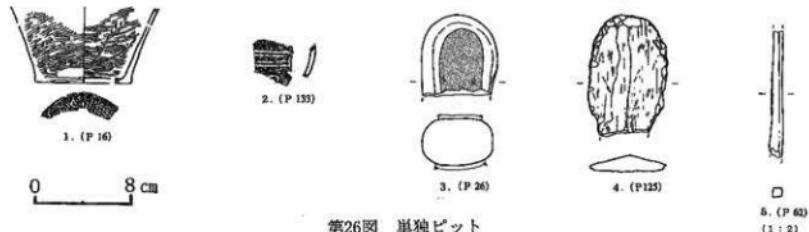
第24図 F2・F4・F7号掘立柱建物址



第25図 F3・F8号掘立柱建物址

### 3、単独ピット（第26図、第9表、図版14）

調査区から160個の単独ピットが検出された。住居址の側に単独ピットが密集してみられた。

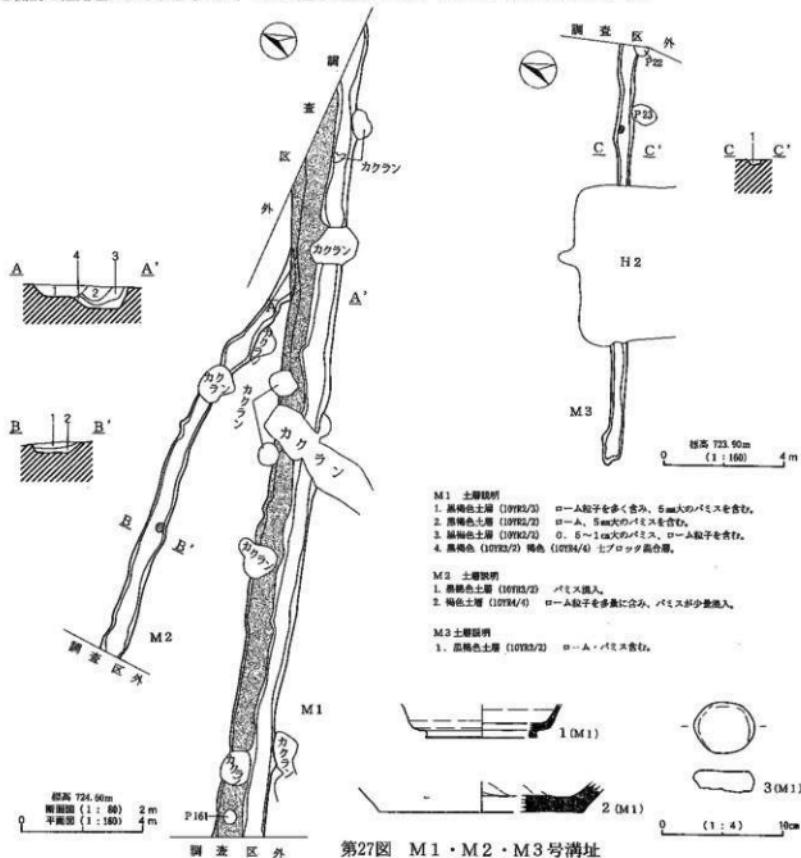


第26図 単独ピット

## 4、溝址

### 1) M1号溝址 (第27図、第10表、図版8・14)

調査区北端、Aご1グリットからCご3グリットにかけて東西方向に伸びる溝である。幅は130~184cmを測り、2段の落ち込みを持つ。北側は浅く締まった底面があり、南側は16cmほど低く締まった面はない。北側の締まった面と側溝は道路址にみられるもので、これは道路の跡であろう。西に向かって低くなっている。



第27図 M1・M2・M3号溝址

出土遺物には須恵器高台付杯(1)、須恵器甕の底部(2)、軽石製円盤状石製品(3)がある。他に破片では須恵器杯の回転糸切り底・瓶胴部・タタキ日の甕、土師器長胴甕、上師器杯の回転糸切り底のものがある。これ以上新しい遺物はみられない。土器片は奈良末~平安頃時代が該期と推測される。

## 2) M 2号溝 (第27図、図版8)

M 1に切られ、その北に東西方向に伸びている。検出グリットはCあ1からCお1グリットである。幅56~92cm深さ10~15cmの浅い溝である。西に傾斜している。

出土遺物は8点の土器破片である。須恵器杯、甕底部、土師器杯、武藏甕胴部といずれも小片である。土器片は古墳後期から奈良時代のものと推測される。

## 3) M 3号溝 (第27図、図版8)

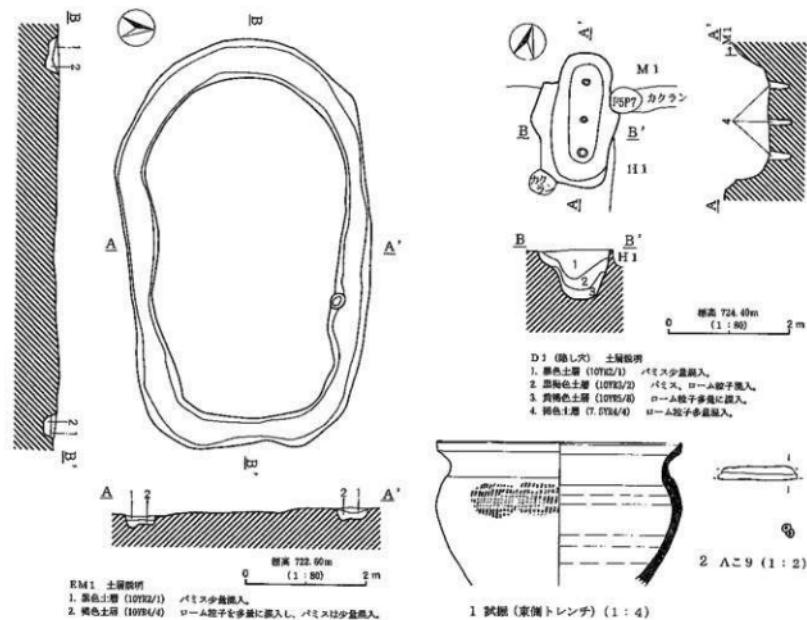
Aく6からCあ7グリットにあり、東西方向に伸びる溝である。古墳時代後期のH2に切られる。幅44~72cm深さ9~20cmを測る。

遺物は出土していない。

## 5、円形周溝

## 1) EM 1号円形周溝 (第28図、図版8)

調査区南端のDあ6グリットにあり、南北400cm、東西668cmの東西に長い楕円形に溝が巡っていた。溝幅は28~68cm、深さ16~27cmを測る。周溝の内部には遺構は認められなかった。



第28図 EM 1号円形周溝・D 1号土坑・試掘・グリット

出土遺物は土器破片のみで、12点ある。須恵器杯は底部回転ヘラ切り離し後ナデ調整される。須恵器甕胴部片は外側タキ内面ナデ調整、須恵器甕口縁部、土師器長胴甕胴部片、丸胴甕、武藏甕胴部片がある。土器片の該期は古墳から奈良時代である。

## 6、陥穴

### 1) D1号土坑 (第28図)

調査区北のCい2グリットで検出された。北側をM1に切られている。長径220cm、短径116cmの楕円形を呈する。深さ74cmを測り、底面からは枕底が3個検出された。

出土遺物はない。

第9表 単独ピット出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	縄文土器 深鉢	— (7.8) <6.3>	内 ミガキ 外 ミガキ			底部1/3残存 内 10YR5/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR5/4(にぶい黄)	緻密。楕円形に網代模子あり。	P16
2	縄文土器 深鉢							P133
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		
3	擦石	6.7	6.3	3.9	268			
4	打斧	10.0	6.6	1.3	120	安山岩		
5	鉄製品	<5.2>	0.4	0.3	40			

第10表 溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	— (9.2) <2.7>	内 ロクロナダ 外 ロクロナダ→底部切り離し→高台貼付			底部1/6残存 5Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子少混合。	M1
2	須恵器 杯	— (16.8) <2.6>	内 ヘラケズリ 外 胴下平・回転ヘラケズリ			底部1/4残存 7.5Y6/1(灰)	1mm以下の白陶粒子。2mm以下の黒色粒子含む。	M1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		
3	擦石	4.2	5.0	1.8	20	軽石製		

第11表 試掘・グリッド出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(20.4) — <11.8>	内 胴部ロクロナダ→口縁部横ナダ 外 胴部タタキ目→横ナダ・口縁部横ナダ			口縁部1/4残存 10Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子含む。 試掘東側トレンチP1	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考		
	鉄製品	<3.3>	0.6	0.4	1			

## 第V章 総括

周防畠遺跡群入高山遺跡では竪穴住居址8棟、掘立柱建物址8棟、溝址3本、円形周溝1本、陥穴1基を検出した。

### 1、竪穴住居址

第IV章で述べたように、竪穴住居址は古墳時代後期～平安時代初頭までの変遷がみられた。

竪穴住居址の土器を時期別にまとめたものが第29・30図である。

I期(古墳時代後期7C代) H2・H3・H7

H2・H3の土器は土師器杯と丸胴甌が共通する器種であるが、長胴甌はH3ではなく、鉢はH2にないというように出上遺物に片寄りがある。しかし土師器杯の形態は同じであることからほぼ同時期と見なした。H2の飾り太刀の鞘尾金の編年が7C中葉以降という年代とすれば、本住居址の土器群も近い時期であることは土器の特徴などから明らかである。しかし、須恵器模倣杯が多く、杯底部がヘラケズリで全体に内湾し、口縁部だけ横ナダする器形の杯がないことから7C前半に置きたい所である。

次にH7号住居址は、須恵器模倣杯の外面の種の屈曲がなくなり、ヘラケズリと横ナダの調整の異なりからできる様のみのものがみられ、新しい様相がある。28・29長胴甌は鉢形を呈し、他の時期に類例がなく、この期の特徴とす

ることができる。

#### Ⅱ期（古墳時代後期末） H 8

H 8は破片資料が多く、使用していた土器の確定は困難である。武藏甕は存在する。かえりのある須恵器蓋はTK 46～TK48窓型式と類似し、7C中頃から7C末頃までの年代があてられている。

#### Ⅲ期（奈良時代前半） H 4・H 5

H 4・5は須恵器杯は回転ヘラケズリ、畿内系暗文の土師器杯、甕は口縁部形態「く」の字の武藏甕で構成される。

#### Ⅳ期（奈良時代末～平安初頭） H 6

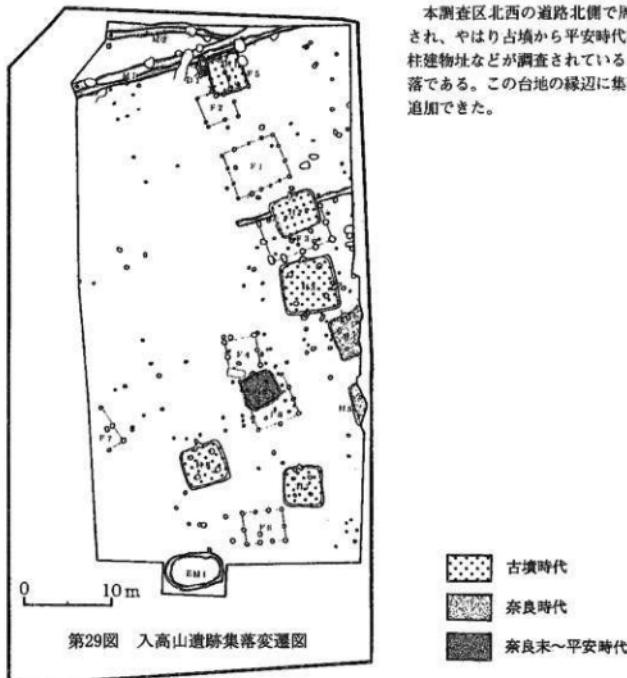
H 6号住居址は底部回転条切り籠しの須恵器杯と武藏甕で構成される。須恵器蓋は扁平な紐がつき、口縁端部が折れるものである。須恵器杯は火滌がみられ黒色が強い。武藏甕は口縁部形態に「コ」の字形態がみられるようになる。

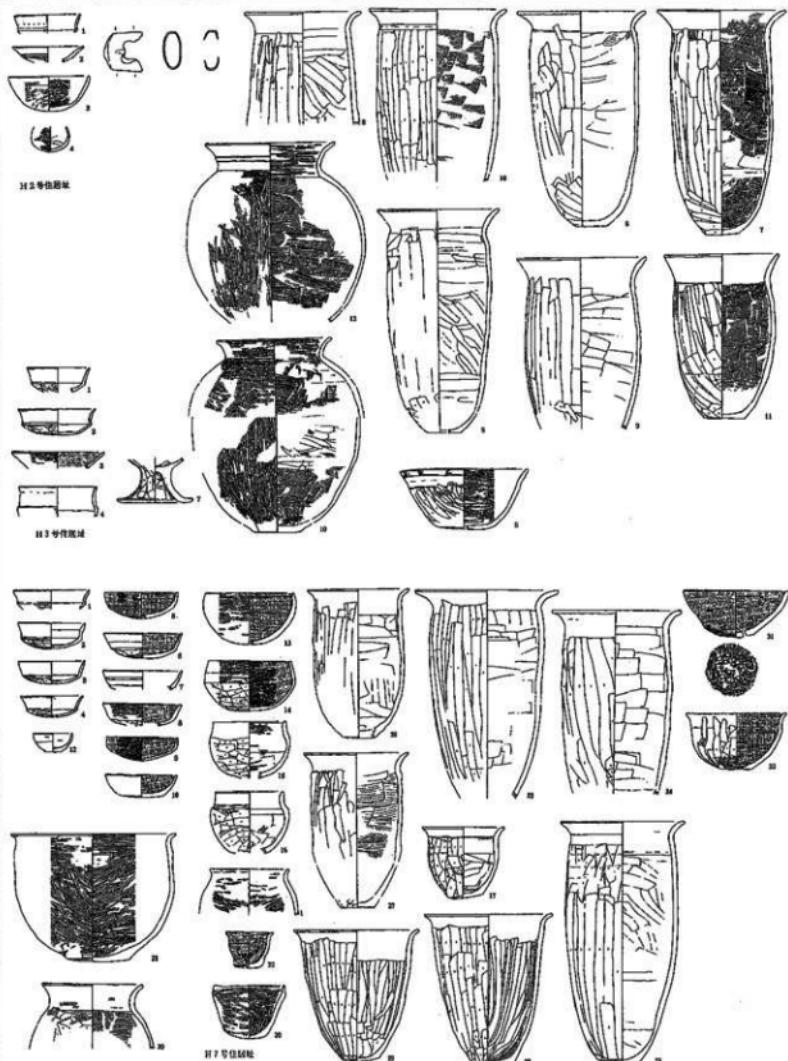
## 2、掘立柱建物址

竪穴住居址と同数の掘立柱建物址が検出された。規模は中型から大型の掘立柱建物址である。F1が梁行き3間であるが他は梁行きは2間である。竪穴住居址と重複のある、H2とF3ではF3が古く、古墳時代後期(7c代)より古い。H6とF8では奈良末～平安初頭のH6より古いことがわかった。しかし、掘立柱建物址と竪穴住居址の関連を直接確かめる資料はなかった。

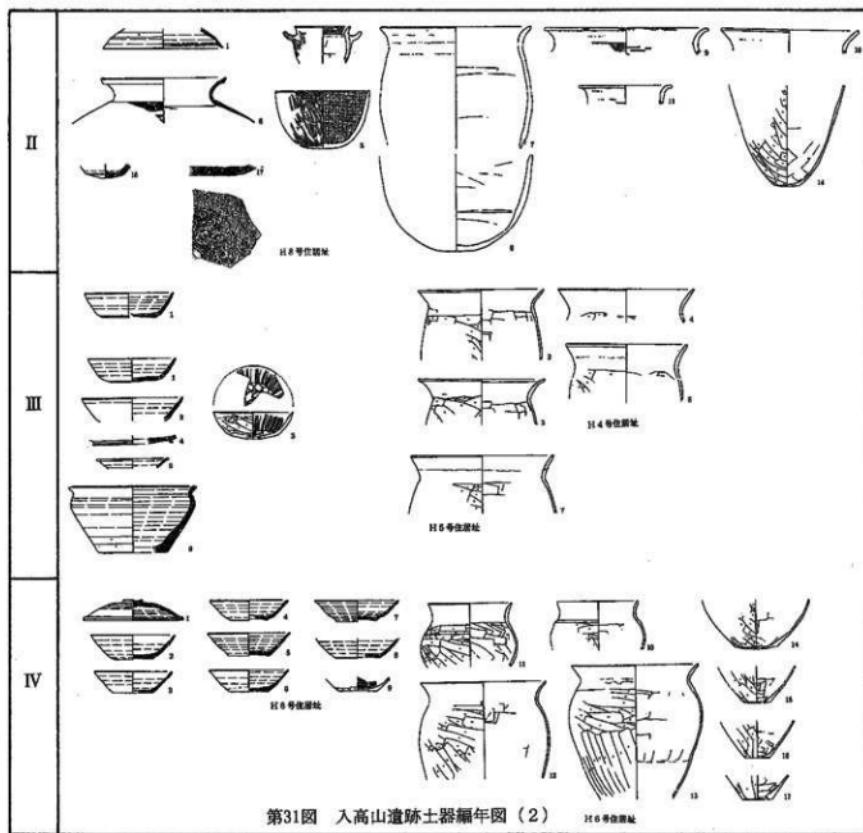
## 3、近隣遺跡との関連

本調査区北西の道路北側で周防畠A遺跡が発掘調査され、やはり占墳から平安時代初頭の竪穴住居址・掘立柱建物址などが調査されているが、本遺跡と同時期の集落である。この台地の縁辺に集落が展開している資料が追加できた。





第30図 入高山遺跡土器編年図（1）



第31図 入高山遺跡土器編年図（2）

## 引用参考文献

- 1971 田辺昭三「須恵器大成」角川書店  
 1978 関大阪文化財センター「陶邑Ⅲ」  
 1980 佐久市教育委員会「周坊畑A」  
 1981 中村浩「和泉陶邑窯の研究」柏書房  
 1984 滝瀬芳之「日本古代文化研究」創刊号「円頭・圭頭・方頭太刀について」  
 1987 御代田町教育委員会「前田遺跡」  
 1991 雄山閣「古墳時代の研究第6巻 土師器と須恵器」  
 1994 小諸市教育委員会「東下原・大下原・竹花・舟塚・大塚原」  
 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書「松原遺跡」  
 1999 長野県考古学会弥生部会編「長野県の弥生土器」  
 1999 佐久市教育委員会「西一本郷Ⅲ・Ⅳ」  
 2000 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54「更埴条理遺跡・屋代遺跡群—総論編」

第12表 周防畠遺跡群入高山遺跡遺構一覧表

## 豎穴住居址

記号	出土位置	規 格 (南北×東西×深さ(cm))	横 形 態	カマド・炉	火焚位置	重複関係	時代	主軸方位	備考
H1	Cあ2	424×380×8	長方形	—	—	F5・M1に切られる D1を切る	N-24°-W		
H2	Aけ6	400×480×48	長方形	カマド	北壁	M3・F3を切る	N-77°-E		
H3	Aく8	560×580×53	方形	カマド	東壁		N-13°-W		北壁に旧カマドあり。
H4	Aき9	464×(400)×52	隅丸長方形	カマド	北壁		N-27°-W		東側調査区域外。
H5	Bき1	476×—×57	—	—	—		N-17°-W		*
H6	Bこ1	348×364×45	方形	カマド	北壁	F8を切る	N-28°-W		
H7	Bく4	428×436×50	方形	カマド	北壁		N-5°-W		
H8	Dあ3	452×484×50	方形	カマド	北壁		N-28°-W		

## 掘立柱建物址

遺構名	様式	出土位置	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模(cm)		備考
								径	深さ	
F1	側柱式	Aこ4	4×3	6.40×5.24	1.04~1.20~1.72	1.6~1.96	N-63°-E	24~44	11~37.5	南列柱穴が個多 い。
F2	側柱式	Cあ3	2×2	3.64×3.40	1.52~2.28	1.68	N-15°-W	36~44	14.5~24	H1・F5に切られる。
F3	側柱式	Aく6	4×2	7.28×4.40	1.6~2.16	2.0~2.4	N-67°-E	48~100	42~79	H2・M3に切られる。
F4	側柱式	Aこ10	1×2	3.60×3.52	1.6~1.8	3.60	N-75°-E	56~68	48~57	カクランに切られる。
F5	総柱式	Cあ2	2×2	4.20×3.70	1.3~1.7	2.0~2.10	N-24°-W	34~54	58~108	H1と繋なる。
F6	側柱式	Bけ5	3×2	4.60×3.60	1.40~1.60	1.80	N-80°-E	44~72	40~90	
F7	側柱式	Dえ2	—×2	—×4.40	1.92	2.20~2.80	N-38°-W	48~64	27~29	西側 調査区域外。
F8	側柱式	Bけ1	3×2	4.84×4.92	1.60~1.72	2.40~1.72	N-65°-E	44~60	13~41	H6に切られる。

## 溝址・円形周溝

遺構名	出土位置	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	Aけ1-Cお3	130~184	26~41	東から西に低い(36cm)
M2	Cあ1-Cお1	56~92	10~15	〃(10cm)
M3	Aく6-Cあ7	44~72	9~20	〃(23cm)
EM1	Dあ6	28~68	16~17	南北400cm×東西668cm(周溝外側の数値)

## 陷穴

遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	Cい2	楕円形	220	116	74	N-14°-W	杭痕は底面より36cm下がる

## 単独ピット(1)

No	出土位置	規 格 (幅×奥行×深さ)(m)	平面形	覆 土 ・ 他	重複関係	出 土 遺 物
P1	A < 2	50×45×26.5	楕 円 形	黒褐色(10YR3/1)		
P2	A付 2	70×50×30	楕 円 形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む	P28を切る	古墳 土師皿刷毛網 器1
P3	A付 2	48×44×14	円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む		
P4	A付 2	54×38×28	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む	P7を切る	
P5	A < 3	34×32×15	円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む		
P6	A付 4	30×28×22	円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む		
P7	A付 2	64×62×29	円 形	にぶい 黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む	P4に切られる P29を切る	
P8	A付 4	44×34×23	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む		
P9	A付 4	60×50×27.5	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む		
P10	A < 4	78×60×64.5	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム少し含む	P55を切る	古墳 壺1
P11	A < 5	44×30×21	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR4/3)		
P12	A < 5	26×24×13.5	円 形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P13	A < 5	30×24×23	楕 円 形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P14	A付 5	138×94×60	楕 円 形	灰黄褐色(10YR5/2) 黒褐色(10YR3/1) 含む		
P15	A < 6	52×(50)×10	円 形	黒褐色(10YR5/2)		
P16	A付 5	110×96×54	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2)炭化物 褐色(10YR4/6) ローム少し含む		奈良 須恵杯1 底部 へら附 繻文 深鉢1
P17	A < 4	50×50×36	円 形	灰黄褐色(10YR5/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P18	A < 3	74×(72)×75	円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P19	A < 3	56×48×74	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P20	A付 4	80×74×25.5	円 形	にぶい 黄褐色(10YR5/3) 浅黄褐色(10YR8/3) ローム多く含む		古墳 長脚カメ1 須恵杯1
P21	C付 4	38×30×22	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)		
P22	A < 6	82×(50)×56	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		古墳 丸脚カメ1 武藏壹2
P23	A < 6	84×60×80	不整楕円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 長脚カメ2
P24	A < 6	48×48×25	円 形	黒褐色(10YR2/2)		古墳 丸脚壹1
P25	A < 7	42×36×19	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2)		
P26	A < 7	116×100×44	長 方 形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)	P60を切る	古墳 七脚杯1 内裏2 須恵壹1 オリ石
P27	A < 7	114×52×32	不整楕円形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)	P61を切る	
P28	A付 2	66×(52)×30	楕 円 形	浅黄褐色(10YR6/4) にぶい 黄褐色(10YR5/3) 黑褐色(10YR2/3) 上蓋	P2に切られる	
P29	A付 2	28×16×14	円 形	黒褐色(10YR3/1)	P4-P7に切られる	
P30	A付 7	44×40×14.5	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P31	A付 7	58×54×28	円 形	灰黄褐色(10YR4/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む	H2を切る	
P32	A付 8	48×40×24	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2)		
P33	A付 8	68×60×22.5	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2) 明黄褐色(10YR7/6) ローム含む		
P34	A付 8	50×38×20	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)		
P35	A付 8	50×(48)×19.5	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		奈良 須恵杯1 長 脚4脚へら附
P36	A付 9	50×50×38	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P37	A付 9	84×70×34.5	楕 円 形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)	H3を切る P73を切る	
P38	A付 7	48×42×35	楕 円 形	黒褐色(10YR2/2)		
P39	A付 7	72×58×24	不整楕円形	にぶい 黄褐色(10YR5/3)		

## 単独ピット(2)

No	出土位置 規格 大きさ(幅×奥行×深さ)(cm)	平面形	覆土・他	重複関係	出土遺物
P40	A < 9 48×40×29	楕円形	黒褐色(10YR3/2)	P118を切る	
P41	A け 7 66×40×25	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P42	A < 7 38×36×18	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P43	A け 7 32×28×22	楕円形	黒褐色(10YR3/2)	P62を切る	
P44	A け 7 44×38×21	楕円形	黒褐色(10YR3/2)	P62を切る	
P45	A け 7 70×60×36	不整椭円形	黒褐色(10YR3/2)		
P46	A け 7 44×34×18.5	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P47	A け 7 36×34×25	円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		古墳 反側室
P48	A こ 8 64×56×41	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P49	A こ 8 36×36×23	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P50	A こ 9 32×30×32	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P51	A こ 8 42×38×21	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P52	A こ 5 30×24×18	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P53	C あ 5 44×42×80	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P54	C あ 6 44×40×23.5	円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P55	A < 4 112×58×74.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)・黒褐色(10YR3/2)	P10に切られる	
P56	C う 5 48×42×36.5	楕円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P57	C え 5 48×42×31.0	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P58	A こ 9 52×36×22.5	楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P59	C う 6 48×42×22.5	楕円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P60	A < 7 72×60×58	楕円形	黒褐色(10YR2/2)	P26に切られる	
P61	A < 7 (70)×58×36	楕円形	黒褐色(10YR2/2)	P27に切られる	
P62	A け 7 68×60×30	楕円形	灰黄褐色(10YR4/2)	P43,P44に切られる	須磨磨 1 銅鏡面 1 須磨磨口鏡 古墳 土師杯1
P63	A こ 6 62×54×29	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P64	A け 6 68×60×29	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P65	A け 6 40×34×20	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P66	A こ 8 52×44×24	不整椭円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P67	C あ 10 60×42×28	楕円形	黒褐色(10YR3/1)		
P68	C あ 10 44×42×26	円形	黒褐色(10YR3/1)		
P69	C あ 10 50×42×27	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P70	B け 1 34×32×35	円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器1
P71	B こ 1 42×36×25	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P72	A こ 10 56×52×49	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P73	A け 9 (10)×70×23.5	不整椭円形	灰黄褐色(10YR4/2)	P37に切られる	須磨磨口鏡1 古墳上陣杯内皿1 寺1
P74	A こ 10 38×36×19	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P75	A こ 10 46×36×26	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P76	A こ 10 60×46×39	楕円形	黒褐色(10YR3/2)	P4に切られる	土師器 武藏窯1 古墳 丸胴窯1
P77	C あ 10 (34)×28×29	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)	P4に切られる	
P78	B け 2 40×36×24	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師器 丸胴窯1
P79	C え 3 24×14×18	楕円形	灰黄褐色(10YR4/2)		

単独ピット(3)

No	出土位置	規 格 基盤大きさ×高さ(cm)	平面形	覆 土 ・ 他	重複関係	出 土 遺 物
P80	Cえ 3	34×32×10	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P81	Cえ 4	30×28×12.5	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P82	Cえ 4	46×36×25.5	楕 円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P83	Cえ 4	28×22×11	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P84	Cえ 4	32×30×16	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P85	Cお 3	24×20×9.5	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P86	Cえ 3	54×50×63.5	円 形			
P87	Cお 2	68×44×58	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P88	Cお 2	48×44×31	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P89	Cあ 1	(70)×40×29	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P90	Cい 4	50×46×27	不整円形	黒褐色(10YR2/2)		古墳 土脚丸軸裏!
P91	B辻 1	58×50×38	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P92	B辻 1	42×42×31.5	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P93	B辻 1	30×22×17	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P94	B辻 2	42×20×39	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P95	B辻 2	58×52×36	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P96	B辻 2	52×42×33.5	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P97	A< 10	63×52×34	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P98	A< 10	62×52×32	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P99	Aけ 10	58×54×32	円 形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P100	A< 10	54×48×35	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P101	Bき 5	32×28×18.5	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P102	Bき 5	26×24×14.5	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P103	Bき 5	25×22×17	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P104	Bき 5	28×28×17	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P105	Bき 6	28×26×11	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P106	B< 6	24×18×10	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P107	Aけ 10	56×50×17.5	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P108	Aけ 10	42×30×23	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P109	Aけ 10	36×34×16	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P110	B< 1	70×48×41	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		須恵器 腹輪不明2 十輪 武藏費2
P111	A< 9	40×36×21	円 形	黒褐色(10YR2/2)		奈良? 須恵杯1
P112	Dあ 1	64×54×33	不整楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P113	A< 10	30×28×12.5	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P114	Bこ 1	34×32×28.5	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P115	Bこ 2	52×46×32.5	楕 円 形	にぶい黄褐色(10YR5/4)		
P116	Cあ 3	74×66×59	楕 円 形			
P117	Aこ 10	30×26×20	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P118	A< 9	111×36×25	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		P40に切られる
P119	Dあ 1	38×36×17	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P120	Bけ 3	50×44×19.5	楕 円 形	黒褐色(10YR3/2)		

単独ピット(4)

No.	出土位置	規 格 寸法(cm)	横 幅 幅	平面形	覆土・他	重複関係	出土遺物
P121	B 二 2	38×32×42	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P122	B 二 2	44×36×18	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P123	B 二 2	40×36×40.1	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P124	D あ 2	38×36×19	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P125	D あ 3	40×38×28	円	形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器蓋2 打脱石斧
P126	B こ 4	40×32×27.5	楕	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P127	D あ 5	60×54×25	円	形	黒褐色(10YR2/2)		
P128	D あ 5	70×60×32.5	楕	円 形	黒褐色(10YR2/2)	P160を切る	
P129	D い 5	50×40×24	楕	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P130	D い 5	50×48×21.5	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P131	D い 4	64×38×27	楕	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P132	D い 3	56×34×26	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P133	D あ 6	72×64×28	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		縄文2
P134	D あ 6	64×54×22	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P135	D あ 1	52×34×37	不整椭円形		黒褐色(10YR3/2)		
P136	B こ 2	38×34×29.5	円	形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師長脛カヌイ
P137	B き 3	60×54×33	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P138	B け 3	48×40×28.5	楕	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師器縄1 土師器 式神鏡3 縄文1
P139	B こ 6	82×70×47.5	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P140	B き 3	58×50×50.5	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器縄2
P141	D う 3	38×34×21	楕	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/4)	P150を切る	
P142	D う 2	42×36×42	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P143	D え 2	60×56×88	円	形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P144	D う 2	46×42×26	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P145	D う 1	62×52×50	楕	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P146	D う 1	50×40×33	楕	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P147	D い 1	50×48×28	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P148	D い 3	28×24×15	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P149	D い 3	22×22×13.5	円	形	黒褐色(10YR3/2)		
P150	D う 3	60×50×28	楕	円 形	灰黄褐色(10YR4/2)	P141に切られる	
P151	D え 3	90×76×19	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P152	D え 2	44×38×25	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P153	C う 10	70×56×40	楕	円 形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P154	C お 9	68×(50)×35	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P155	C お 9	36×34×23	円	形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P156	C え 8	66×44×36	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P157	C え 8	80×54×39	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P158	B こ 1	(50)×48×31.5	円	形	黒褐色(10YR3/2)	H56に切られる	
P159	C う 8	50×(40)×24	楕	円 形	黒褐色(10YR3/2)		
P160	D あ 5	(50)×50×31	円	形	黒褐色(10YR3/2)	P128に切られる	



H 1号住居址 完掘(東より)



H 1号住居址 塙方(東より)



H 3号住居址 遺物(南より)



H 3号住居址 カマド(新)(西より)



H 3号住居址 遺物出土状況(南より)



H 3号住居址 カマド礫方(北より)



H 3号住居址 遺物出土状況(南より)



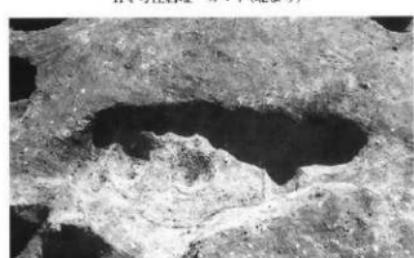
H 3号住居址 カマド(旧)(東より)



H 3号住居址 カマド(旧)(南より)



H 3号住居址 磕方(東より)





H6号住居址 完掘(南西より)



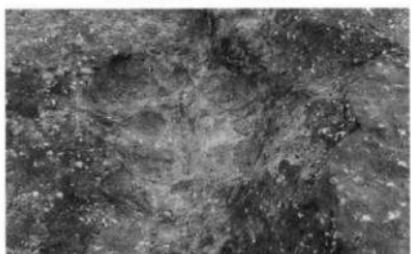
H6号住居址 完掘(南西より)



H6号住居址 カマド(東より)



H6号住居址 カマド(西より)



H6号住居址 カマド壠方(東より)



H6号住居址 壕方(南西より)



H7号住居址 遺物出土状況(北より)



H7号住居址 遺物出土状況(南より)



H 7号住居址 遺物出土状況(東より)



H 7号住居址 遺物出土状況(南より)



H 7号住居址 遺物石(南より)



H 7号住居址 完掘(北より)



H 7号住居址 カマド(東より)



H 7号住居址 カマド(南より)



H 7号住居址 カマド塙方(西より)



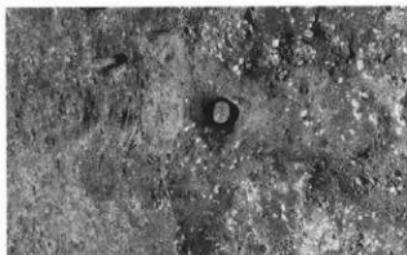
H 7号住居址 塙方(北より)



H 8号住居址 完掘(東より)



H 8号住居址 カマド(東より)



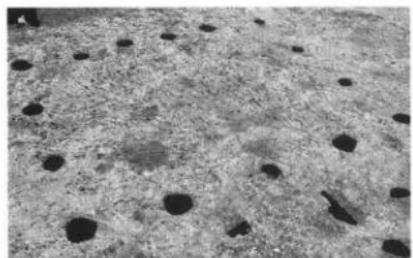
H 8号住居址 カマド(北より)



H 8号住居址 カマド壠方(東より)



H 8号住居址 壺方(南より)



F1号柱立建物址 完堀(北東より)



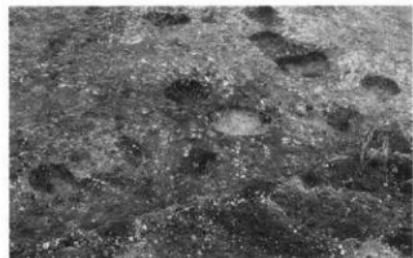
F3号柱立建物址 完堀(西より)



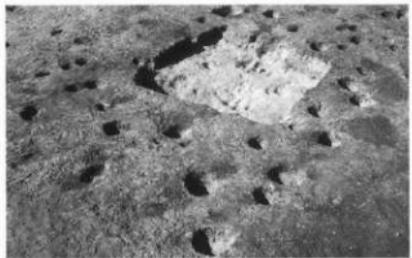
F4号柱立建物址 完堀(北より)



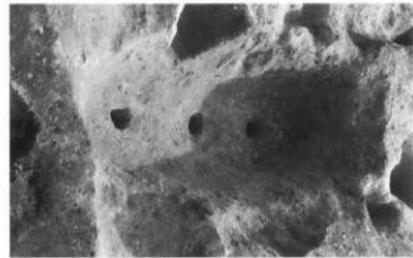
F6号柱立建物址 完堀(北東より)



F7号柱立建物址 完堀(西より)



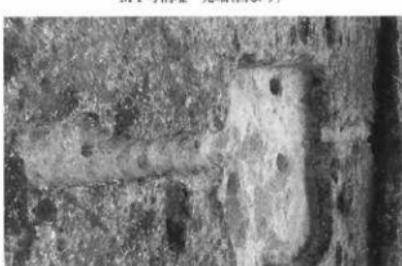
F8号柱立建物址 完堀(南西より)

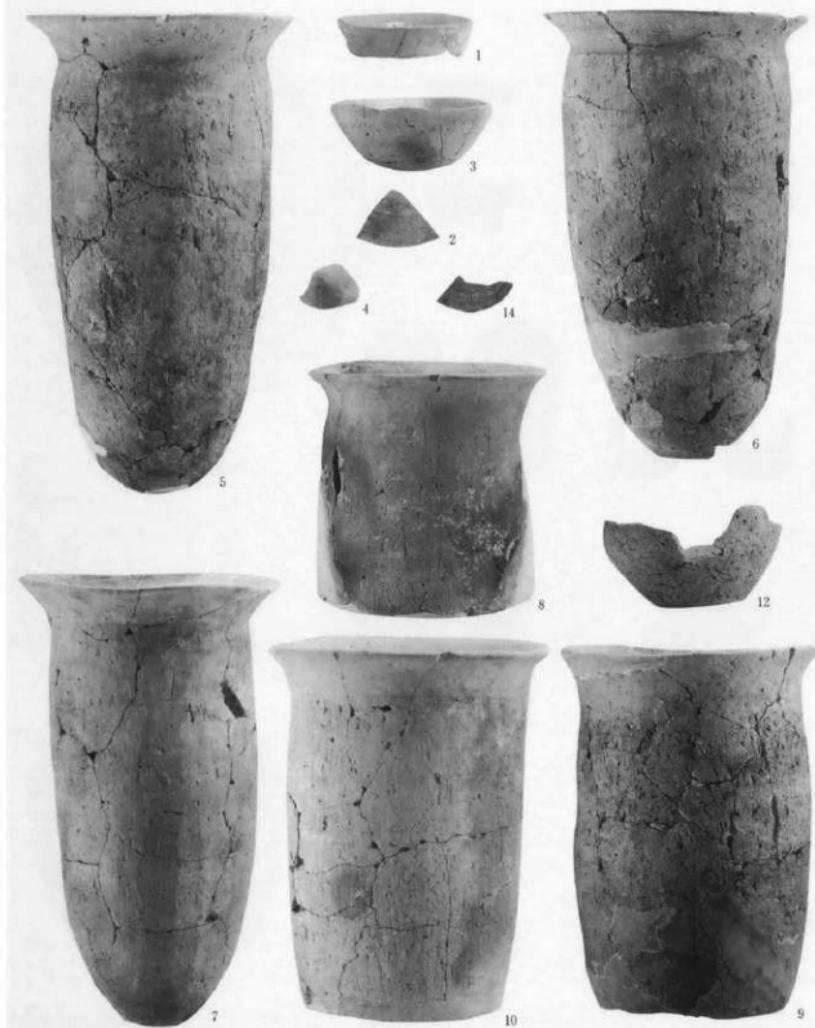


D1号土坑 完堀(北より)

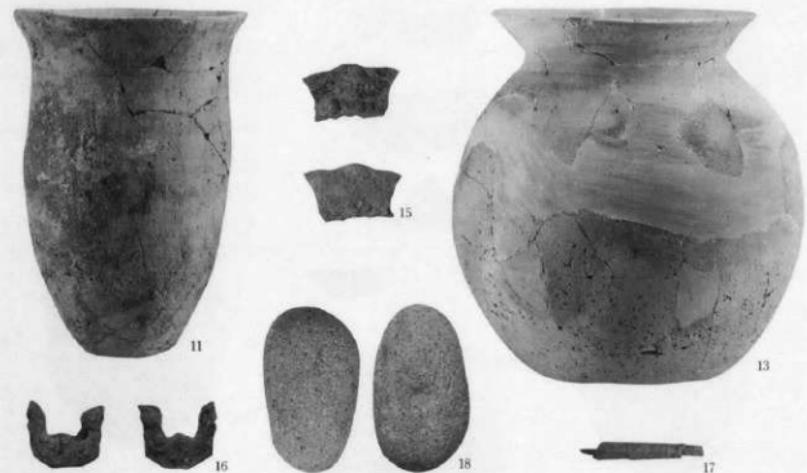


遺跡近景(南より)

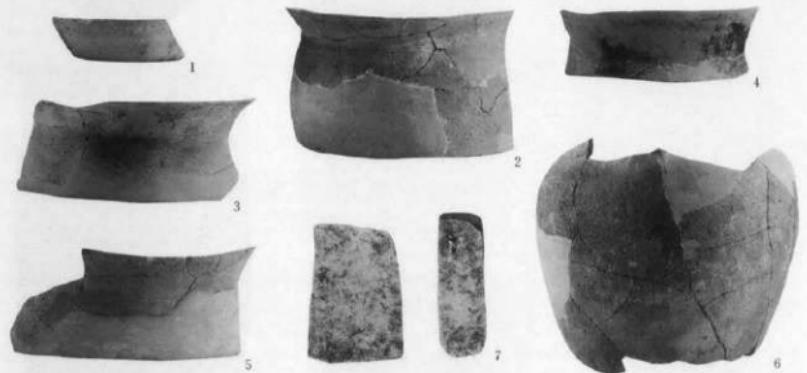




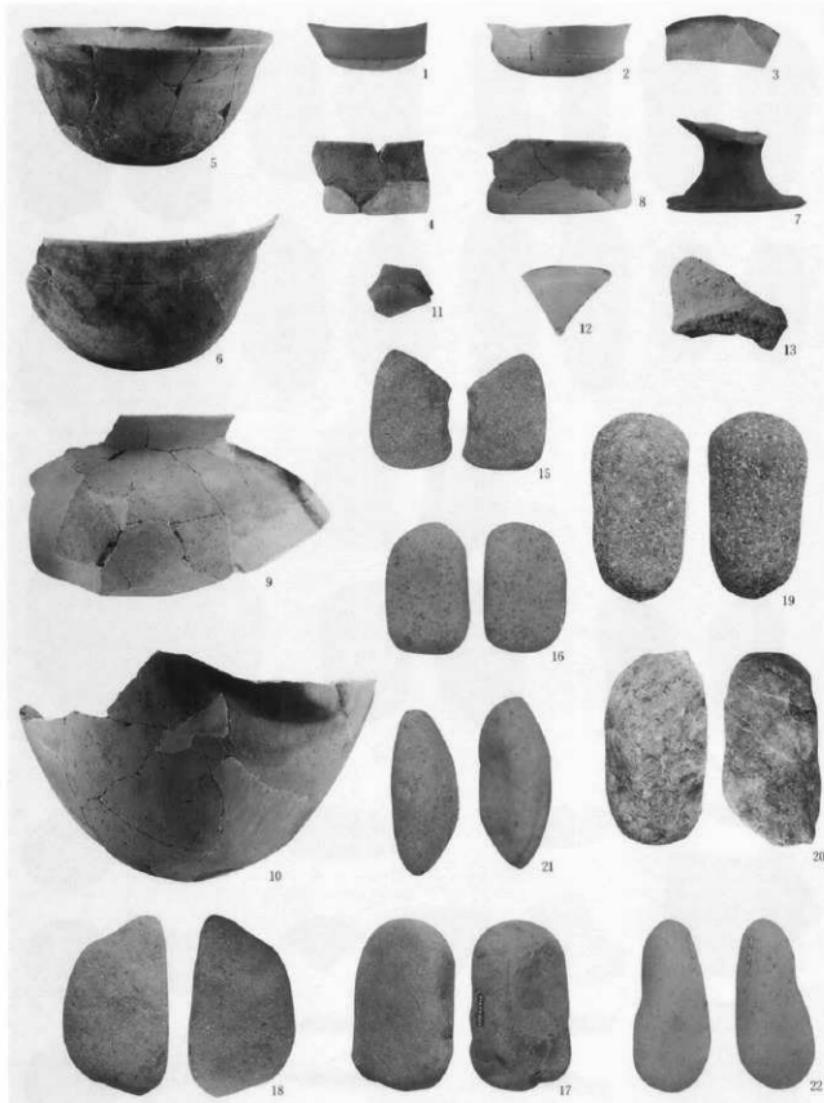
H 2号住居址



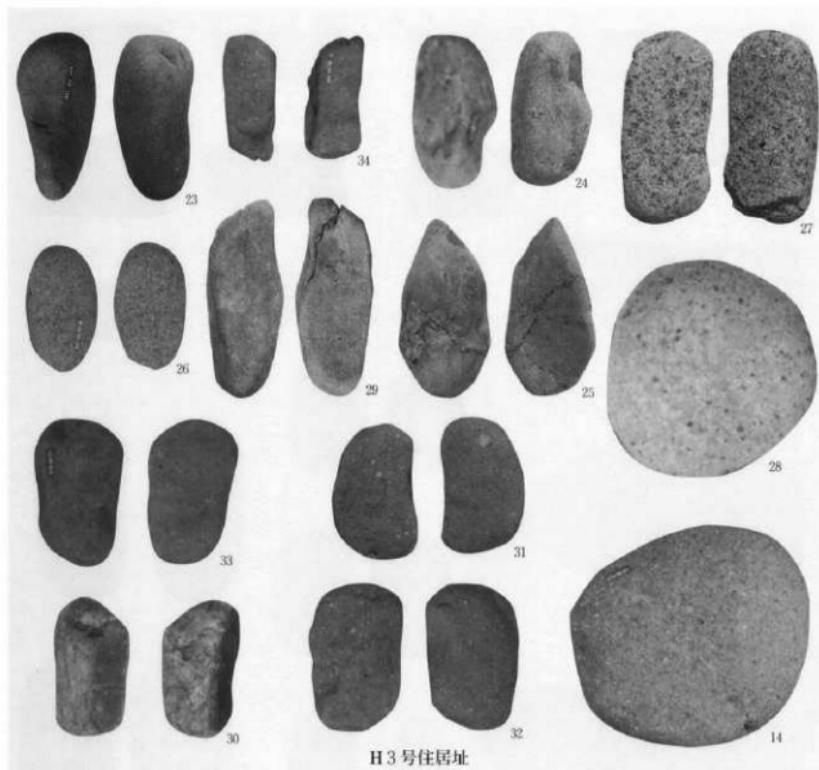
H2号住居址



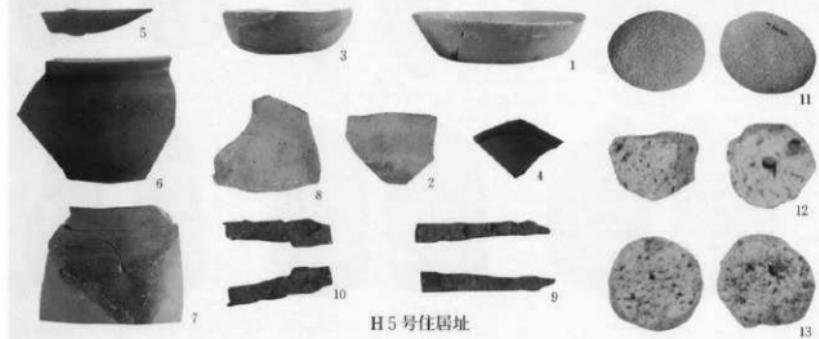
H4号住居址



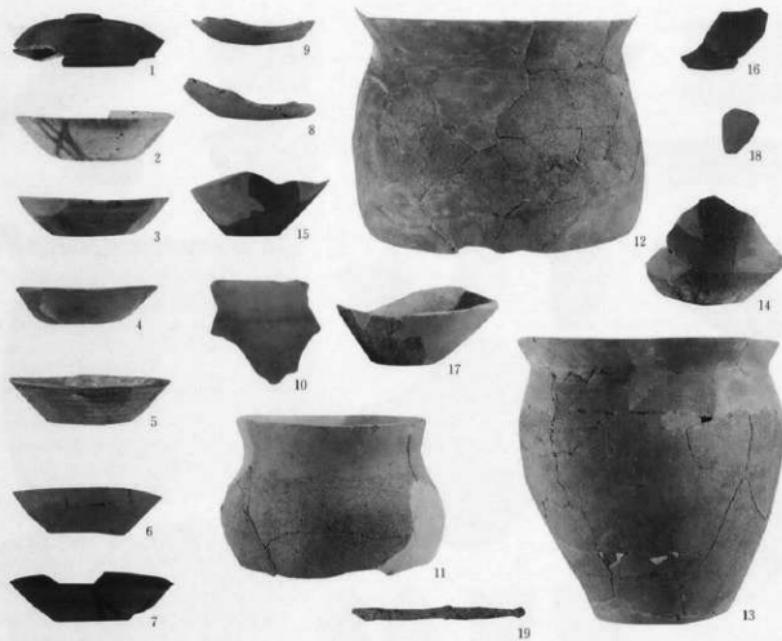
H 3 号住居址



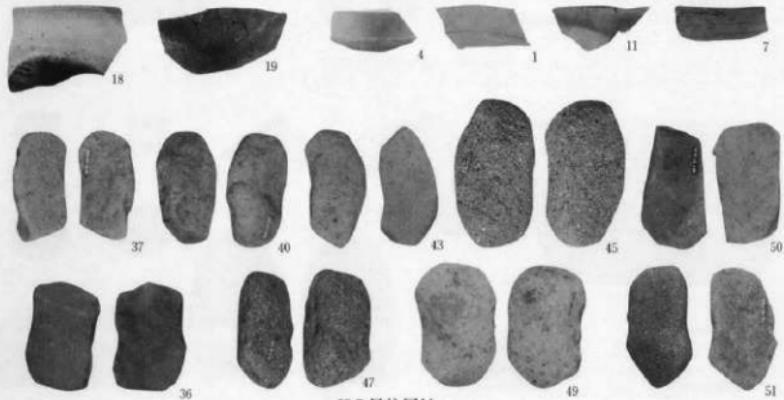
H3号住居址



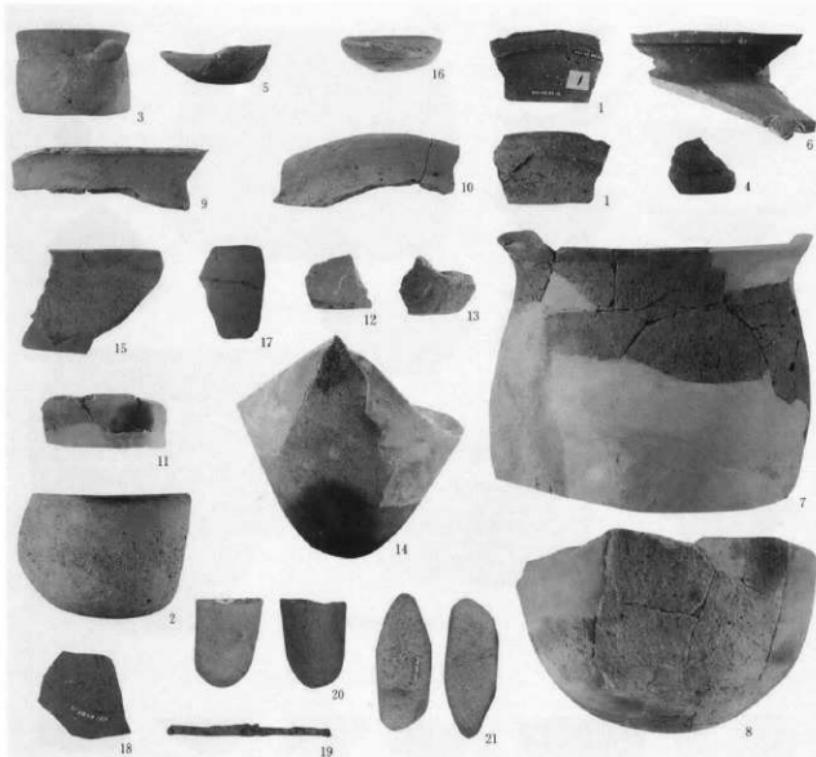
H5号住居址



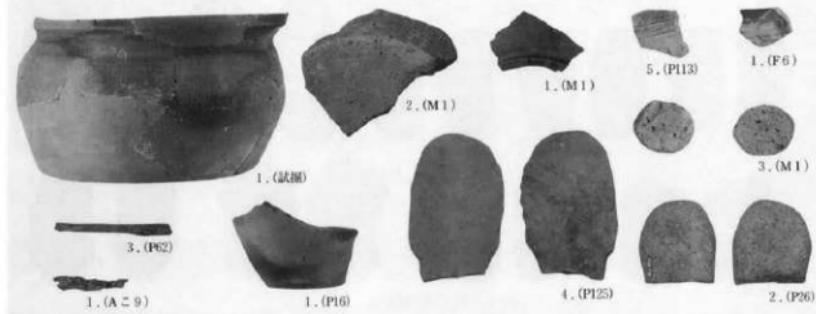
H 6 号住居址



H 7 号住居址



H 8号住居址



## 佐久市埋藏文化財調査報告書

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1集  | 【金井城跡】                     |
| 第2集  | 【市内遺跡発掘調査報告書1990】          |
| 第3集  | 【石窟奈良群Ⅲ】                   |
| 第4集  | 【大ふけ】                      |
| 第5集  | 【立科F遺跡】                    |
| 第6集  | 【上曾根遺跡】                    |
| 第7集  | 【「三貢」跡遺跡】                  |
| 第8集  | 【瀧の下遺跡】                    |
| 第9集  | 【国置141号線関係遺跡】              |
| 第10集 | 【聖原遺跡Ⅱ】                    |
| 第11集 | 【赤坂岸外遺跡】                   |
| 第12集 | 【若宮遺跡Ⅲ】                    |
| 第13集 | 【上高山西道跡】                   |
| 第14集 | 【栗毛板道跡】                    |
| 第15集 | 【野馬久保遺跡】                   |
| 第16集 | 【石並城跡】                     |
| 第17集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1991】(1月~3月)   |
| 第18集 | 【西曾根遺跡】                    |
| 第19集 | 【上芝宮遺跡】                    |
| 第20集 | 【下御嶽遺跡Ⅲ】                   |
| 第21集 | 【金井城跡Ⅲ】                    |
| 第22集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1991】          |
| 第23集 | 【南上中原・南下中原遺跡】              |
| 第24集 | 【上聖廟遺跡】                    |
| 第25集 | 【上久保田向Ⅳ】                   |
| 第26集 | 【藤塚古墳群・藤塚Ⅱ】                |
| 第27集 | 【上久保田向Ⅴ】                   |
| 第28集 | 【曾根新城Ⅲ】                    |
| 第29集 | 【龍村遺跡B・山法師遺跡B】             |
| 第30集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1992】          |
| 第31集 | 【山法師遺跡A・龍村遺跡A】             |
| 第32集 | 【東ノ削】                      |
| 第33集 | 【聖原遺跡Ⅳ・下曾根遺跡Ⅰ】             |
| 第34集 | 【西一本桜遺跡】                   |
| 第35集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1993】          |
| 第36集 | 【蛇塚B・遺跡Ⅲ】                  |
| 第37集 | 【西一本桜遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡】          |
| 第38集 | 【南下中原遺跡Ⅱ】                  |
| 第39集 | 【中星郡遺跡】                    |
| 第40集 | 【寺畠遺跡】                     |
| 第41集 | 【曾根新城跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ】 |
| 第42集 | 【寄山】                       |
| 第43集 | 【梅見平遺跡・池端遺跡】               |
| 第44集 | 【寺原遺跡】                     |
| 第45集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1994】          |
| 第46集 | 【箇内遺跡】                     |
| 第47集 | 【上芝宮遺跡Ⅴ】                   |
| 第48集 | 【池城跡】                      |
| 第49集 | 【根ノ川芝宮遺跡】                  |
| 第50集 | 【藤原遺跡Ⅲ】                    |
| 第51集 | 【寺内遺跡・中屋敷遺跡】               |
| 第52集 | 【坪の内遺跡】                    |
| 第53集 | 【円功寺遺跡】                    |
| 第54集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1995】          |
| 第55集 | 【希羅寺遺跡Ⅰ・Ⅱ】                 |
| 第56集 | 【聖原遺跡】                     |
| 第57集 | 【高野町遺跡】                    |
| 第58集 | 【下伏山遺跡】                    |
| 第59集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1996】          |
| 第60集 | 【曾根城遺跡】                    |
| 第61集 | 【削地遺跡】                     |
| 第62集 | 【野馬久保遺跡】                   |
| 第63集 | 【久大・久保遺跡】                  |
| 第64集 | 【桿の木道路】                    |
| 第65集 | 【中宿遺跡】                     |
| 第66集 | 【中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡・寺知遺跡】       |
| 第67集 | 【供普請跡】                     |
| 第68集 | 【前藤寺遺跡】                    |
| 第69集 | 【高山遺跡】                     |
| 第70集 | 【観音堂遺跡】                    |
| 第71集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1997】          |
| 第72集 | 【市道遺跡】                     |
| 第73集 | 【西一本桜跡】                    |
| 第74集 | 【五里田遺跡】                    |
| 第75集 | 【八風山・五斗代】                  |
| 第76集 | 【南近津】                      |
| 第77集 | 【番屋前遺跡】                    |
| 第78集 | 【蛇塚遺跡・蛇塚古墳】                |
| 第79集 | 【四ツ塚遺跡】                    |
| 第80集 | 【四ツ塚遺跡】                    |
| 第81集 | 【施原寺跡】                     |
| 第82集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1998】          |
| 第83集 | 【下曾根遺跡】                    |
| 第84集 | 【櫻名平遺跡】                    |
| 第85集 | 【御堂跡】                      |
| 第86集 | 【市内遺跡発掘調査報告書1999】          |
| 第87集 | 【宮曾遺跡】                     |
| 第88集 | 【下曾根遺跡】                    |
| 第89集 | 【川原端遺跡】                    |
| 第90集 | 【桿の木遺跡】                    |
| 第91集 | 【西一本桜遺跡V・VI・中長塚・松の木遺跡】     |
| 第92集 | 【辻の前遺跡】                    |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第93集

## 蜀防烟遺跡群 入高山遺跡

# —長野県佐久市長土呂入高山遺跡発掘調査報告書—

2001年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 6201-00-7521

印 刷 所 株式会社 佐久印刷所

